

バリューチェーンの強化

建機事業は過去最高の受注状況
エアフィルタ事業・ヘルスケア事業は
事業構造改革、生産性向上により収益性改善を図る

ヤマシンフィルタ株式会社
2022年3月期 第1四半期
決算説明資料

2021年8月4日

2022年3月期第1四半期における事業環境・当社取り組みについて

事業環境

- 建機用フィルタ事業：新型コロナウイルスの感染再拡大懸念、原材料価格高騰、半導体等の不足影響等先行きは依然不透明、**日本、米国、欧州、アジアでの建機需要は大幅に増加し、感染拡大前の水準まで回復**
- 世界最大の建機市場の中国では、中国系メーカーの市場占有率拡大継続の中、**新車販売台数は高水準を維持**
- エアフィルタ事業・ヘルスケア事業：各国で経済活動が再開し、感染拡大に伴う社会・生活様式の変化の下、当社の**ビジネス拡大機会が到来**



当社取り組み

「YAMASHIN Nano Filter™」展開

- ◆ **建機用フィルタビジネス**
⇒ 高付加価値かつサステナブルな製品・技術の普及によるGHG（Green House Gas=温室効果ガス）排出量削減に貢献
- ◆ **エアフィルタビジネス**
⇒ ナノファイバー製品・技術により、GHG排出量削減、気候変動、環境課題解決に貢献
- ◆ **ヘルスケアビジネス**
⇒ 健康被害リスク低減に貢献
- ◆ **その他事業ポートフォリオ確立**
⇒ アパレル、油吸着材、その他産業資材への活用によりサステナブルな製品供給拡大

2022年3月期 第1四半期 業績動向

- **連結売上高：前年同期比63.9%増収の46億85百万円**
 - 建機用フィルタ：前年同期比 71%増収の 37億52百万円
 - エアフィルタ：前年同期比 3.9%減収の 6億37百万円
 - ヘルスケア：2億95百万円
- **営業利益：前年同期比4億39百万円増益の3億41百万円**
 - 建機用フィルタ事業は、航空運賃が一時的に発生するも需要増加により大幅増益
 - エアフィルタ事業はオフィスビル等の稼働率低下の影響により減益
 - ヘルスケア事業は第2四半期導入予定の全自動化ラインの導入が途上段階であり、製造原価の低減が不十分であったことにより大幅減益

当社取り組みについて（詳細）

- バリューチェーンの再編・強化を全事業で実施
- ESGへの取り組みと事業ポートフォリオ拡大を両立
- 建機事業はサプライチェーンの見直しにより収益力を強化
- エアフィルタ・ヘルスケア事業の生産性向上による収益改善を図る

建機用フィルタビジネス

新素材やIoT技術を活かした高付加価値フィルタ製品ラインナップの拡充

ナノファイバー製ロングライフフィルタ、エアレーション技術、センサ技術を搭載したフィルタ製品の展開を実施

北米市場、中国市場のシェア拡大

当社主力製品であるリターンフィルタに加え、燃料用、トランスミッション用フィルタ等の新規採用提案、中国系建機メーカーへの採用実績が進展

エアフィルタビジネス

欧米市場でのエアフィルタ性能規格取得（ASHRAE、EN等）による海外市場開拓

ナノファイバー製エアフィルタ供給拡大

ナノファイバー製エアフィルタのオフィスビル、病院、工場、鉄道車両、等への採用を加速

ヘルスケアビジネス

家庭用マスク市場

ドラッグストア等販売チャネルへの製品供給が進展、全自動化ライン導入による収益性改善を実施

医療用マスク市場

DS2認定取得、N95等の海外認証取得により長期的な視点での市場開拓を実施

その他事業ポートフォリオ確立 「YAMASHIN Nano Filter™」展開

アパレル&産業用資材としての市場領域の拡大

YAMASHIN Nano Filter™の各種産業用資材としての活用に向けた採用提案を実施

I

2022年3月期第1四半期実績及び2022年3月期通期見通し

P4

II

市場を取り巻く環境

P24

III

今後の戦略

P38

決算

I 2022年3月期第1四半期実績及び 2022年3月期通期見通し

2022年3月期 第1四半期業績 (2021年4月~6月)

		2021/3期	2022/3期	前年同期比	
		Q1 実績	Q1 実績	増減額 (百万円)	増減率
		金額 (百万円)	金額 (百万円)		
売上高		2,858	4,685	1,827	63.9%
	建機用フィルタ※	2,194	3,752	1,558	71.0%
	エアフィルタ	663	637	△26	△3.9%
	ヘルスケア	-	295	295	-
営業利益 (セグメント利益)		△98	341	439	-
	建機用フィルタ※	139	799	659	473.0%
	エアフィルタ	70	19	△50	△71.7%
	ヘルスケア	-	△111	△111	-
	全社費用	△308	△366	△58	19.0%
	営業利益率	△3.4%	7.3%	-	
経常利益		△101	334	436	-
	経常利益率	△3.6%	7.1%	-	
四半期純利益		△82	208	291	-
	四半期純利益率	△2.9%	4.4%	-	
為替レート (円) (期中平均値)	USD	107.6	109.5	1.9	1.7%
	EUR	118.5	132.0	13.5	11.4%

※「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます

* 各セグメントの業績及び全社費用をよりの確に把握するため、当社の各報告セグメントに帰属しない本社及び一部子会社の管理部門の一般管理費等の全社費用につきましては、全社費用を別掲することにより、当連結会計年度より、所定のセグメントに配賦しない方法に変更しております

	2021/3期 Q1 実績	2022/3期 Q1 実績	前年同期比	
	金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ	1,804	3,435	1,630	90.4%
ライン品	821	1,488	667	81.3%
補給品	982	1,946	963	98.0%
産業用フィルタ	111	129	17	16.1%
プロセス用フィルタ	278	188	△90	△32.5%
建機用フィルタ 合計	2,194	3,752	1,558	71.0%
エアフィルタ	663	637	△26	△3.9%
ヘルスケア	-	295	295	-
売上高合計	2,858	4,685	1,827	63.9%

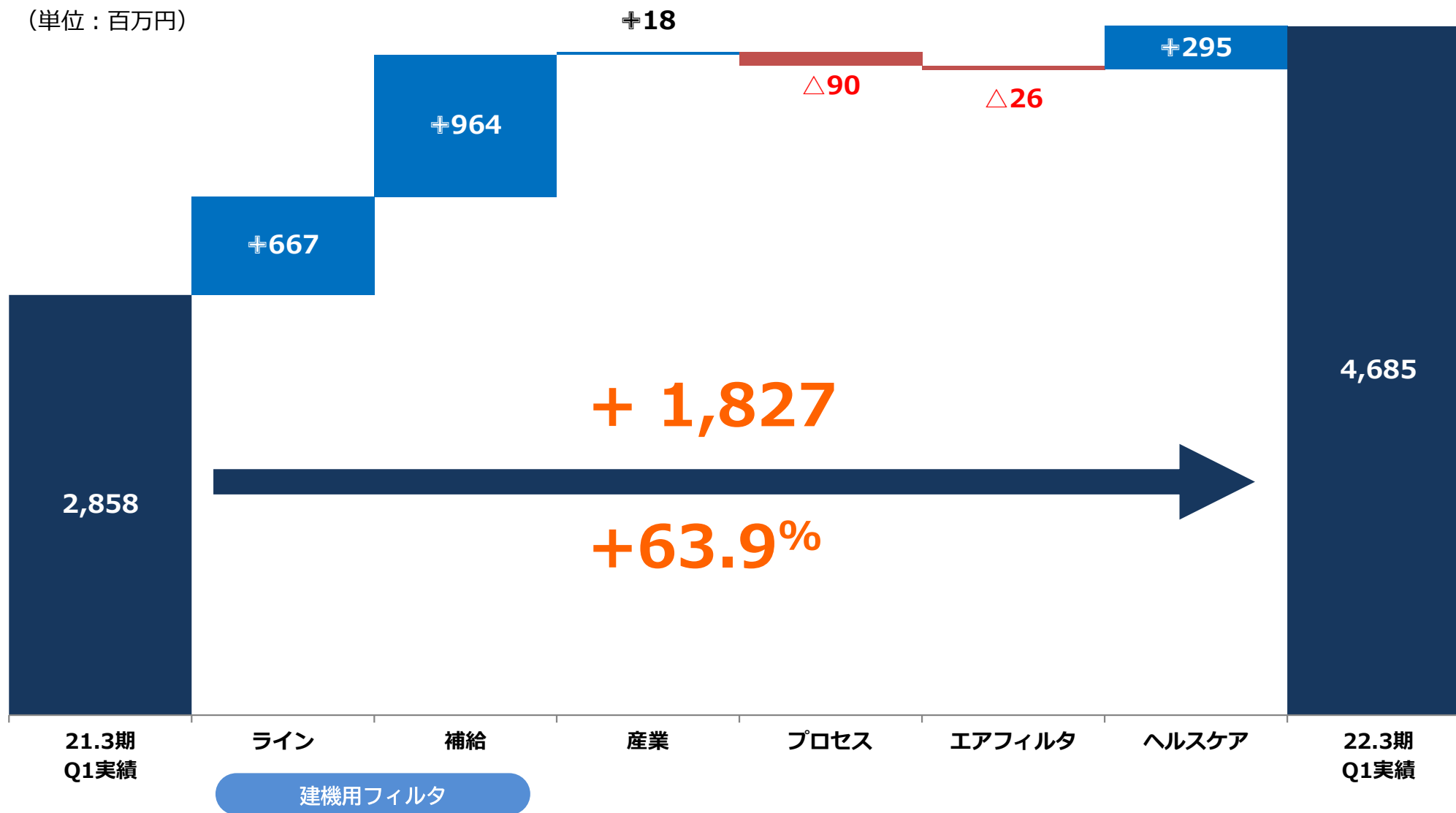
	2021/3期 Q1 実績		2022/3期 Q1 実績		前年同期比	
	金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ※	2,194	76.8%	3,752	80.1%	1,558	71.0%
国内	1,086	38.0%	1,729	36.9%	643	59.2%
北米	295	10.3%	686	14.7%	391	132.6%
中国	325	11.4%	564	12.1%	239	73.7%
アジア	274	9.6%	365	7.8%	90	33.2%
欧州	213	7.5%	405	8.6%	191	90.0%
その他（中東他）	0	0.0%	1	0.0%	1	358.7%
エアフィルタ（国内）	663	23.2%	637	13.6%	△26	△3.9%
ヘルスケア（国内）	-	0.0%	295	6.3%	295	-
売上高合計	2,858	100.0%	4,685	100.0%	1,827	63.9%

※「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます

* 当社は請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます

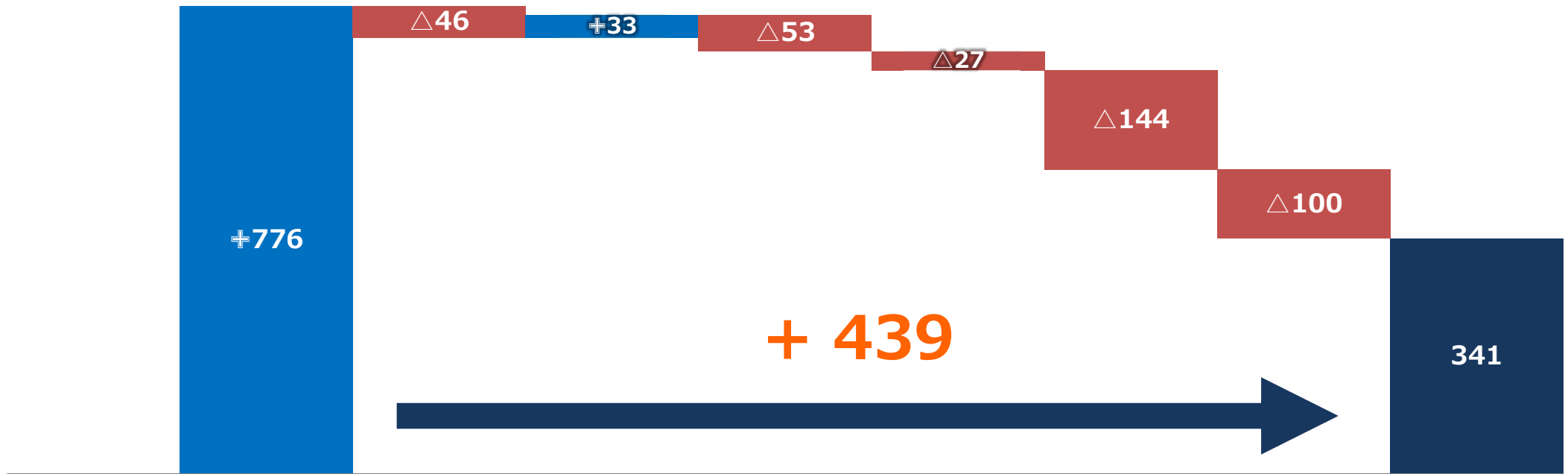
売上高の増減要因（2021/4-6）

(単位：百万円)



営業利益の増減要因 (2021/4-6)

(単位：百万円)



営業利益率
△3.4 %

営業利益率
7.3 %

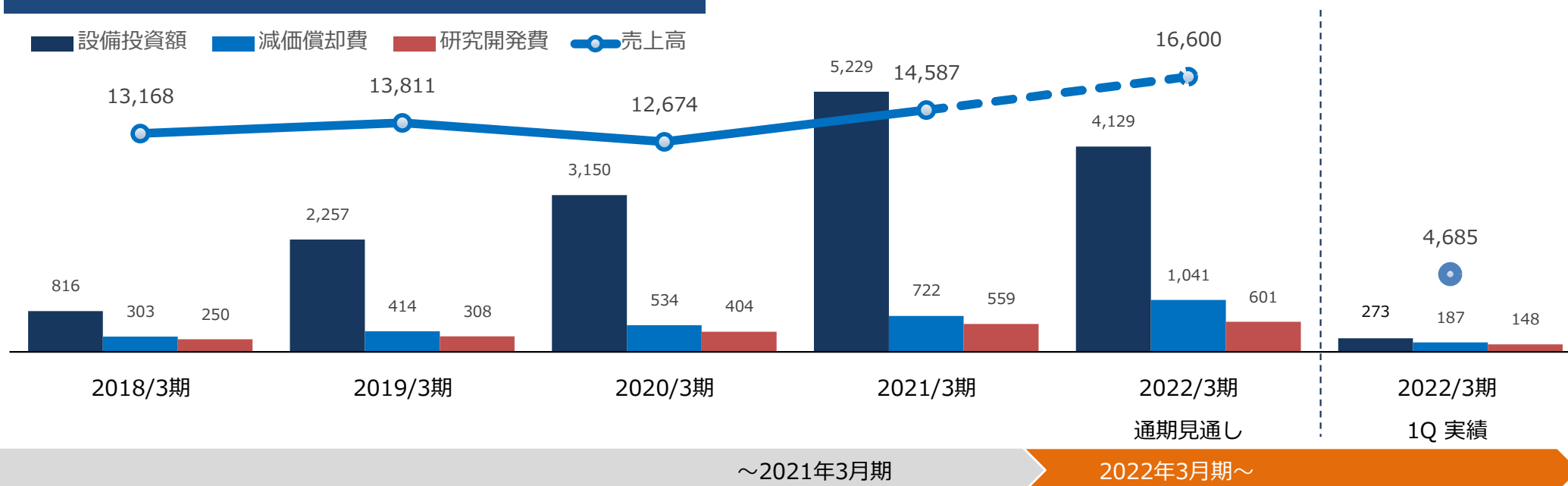
営業利益
21.3期
Q1実績

建機 売上増加 に伴う増益	エアフィルタ 売上減少 に伴う減益	ヘルスケア セグメント追加 による増益	建機 販管費増加 に伴う減益	エアフィルタ 販管費増加 に伴う減益	ヘルスケア セグメント追加 による販管費増加 に伴う減益	建機 航空便等 営業費用増加 に伴う減益
---------------------	-------------------------	---------------------------	----------------------	--------------------------	---------------------------------------	-------------------------------

営業利益
22.3期
Q1実績

単位 百万円	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	2022年3月期 通期見通し	2022年3月期 1Q 実績
売上高	13,168	13,811	12,674	14,587	16,600	4,685
設備投資額	816	2,257	3,150	5,229	4,129	273
土地・建物	-	1,588	2,682	3,194	3,256	66
その他設備投資	816	669	468	2,036	873	208
売上高比率	6.2%	16.3%	24.9%	35.9%	24.9%	5.8%
減価償却費	303	414	534	722	1,041	187
売上高比率	2.3%	3.0%	4.2%	5.0%	6.3%	4.0%
研究開発費	250	308	404	559	601	148
売上高比率	1.9%	2.2%	3.2%	3.8%	3.6%	3.2%

売上高及び設備投資額・減価償却費・研究開発費の推移



生産技術・管理・システムの総合的な改善を実施し、利益体制の強化を図る

PAC21



Promptly
迅速



Activated
かつ効果的な



Cost reduction
コスト削減計画

20



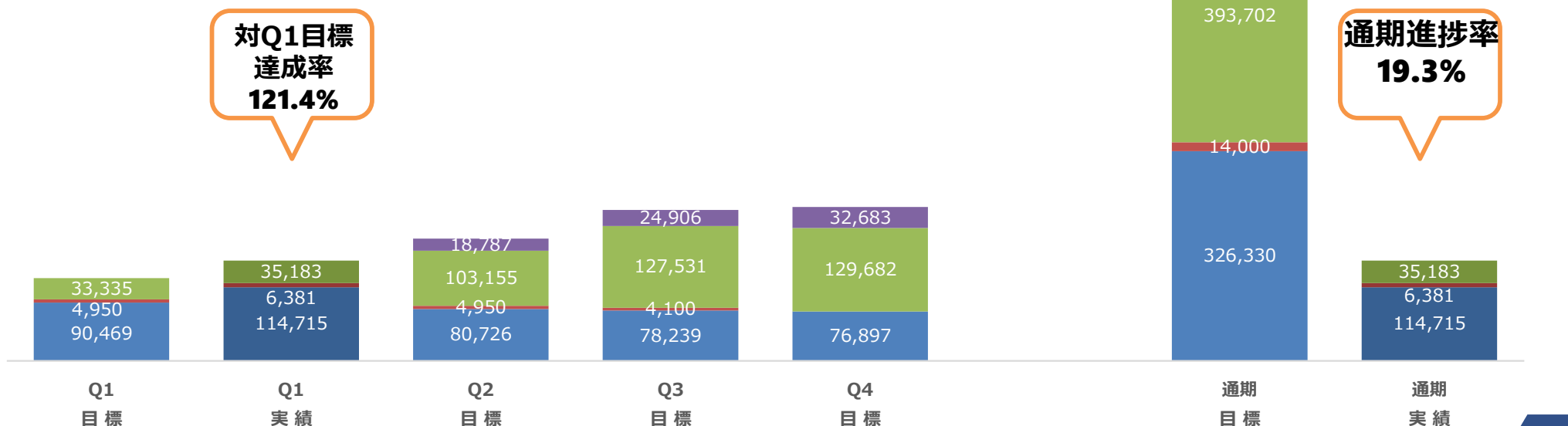
■ 削減目標金額

単位：千円

		Q1	Q1 実績	Q2	Q3	Q4	通期	通期 実績
PAC21	製造原価	90,469	114,715	80,726	78,239	76,897	326,330	114,715
	販管費	4,950	6,381	4,950	4,100	0	14,000	6,381
計		95,419	121,096	85,676	82,339	76,897	340,330	121,096
人員削減		33,335	35,183	103,155	127,531	129,682	393,702	35,183
PAC21+		0	0	18,787	24,906	32,683	76,376	0
総合計		128,754	156,279	207,618	234,777	239,261	810,409	156,279

■ 進捗状況

■ 製造原価 ■ 販管費 ■ 人員削減 ■ PAC21+



管理部門にとどまらず、現場にまで
企業価値向上の目標数値を落とし込む

MAVY'Sとは (ROIC - WACC)

Maximizing
Added
Value of
Yamashin Filter
Spread

投下資本の利潤最大化を目指し、
各責任部署が (KPI) を設定し
業務に取り組む (KSF) ための
最重要指標 (KGI)

MAVY's
スプレッド拡大により
ステークホルダーの期待に応える

各指標に対して、担当部署を
割り振り、各KPIを設定して
目標達成に向けた業務運営を
全社にて行う

Key Goal Indicator (KGI)	Key Performance Indicator (KPI)	Key Success Factor (CFS)	責任部署	22.3期部門目標 (action plan)	22.3期進捗																												
MAVY's Prv: -11.3% Cur: -3.1%	売上高営業利益率 Prv: -1.0% Cur: 9.0%	売上高伸長率 Prv: 5.6% Cur: 13.8%	新製品開発 純正率向上	営業・開発	・中国企業への参入拡大・加速 ・エアフィルタラインナップによる製品・提案力強化 ・マスク関連製品市場への進出 ・新規事業領域への進出	・中国系建機メーカー向け新機種採用実績向上 ・ハイブリッドフィルタの各社提案進展 ・マスク関連製品の販売開始量産供給量拡大 ・アパレル業界向け供給継続進展(脱ダウン)																											
					売上総利益率 Prv: 39.8% Cur: 46.4%	売上原価 Prv: 60.2% Cur: 53.6%	購買力強化 歩留り改善	生産・SCM	・PAC21 ・購買力強化 ・生産管理の改善	・購買先の評価基準の見直しと集約実施完了 ・共通購買(アクシー)による調達コスト削減 ・計画的な保守・保全実施による歩留まり改善、製造原価削減実行進展																							
									減価償却費率 Prv: 4.6% Cur: 6.3%	投資計画	経営企画 財務経理	・M&A(収益拡大・経営安定化手段) →M&A先企業の情報収集 →不織布事業体買収(下流) →新素材開発企業買収(上流)	・国内外のM&Aデータの収集並びに潜在可能性あるM&A先とのコミュニケーションの強化(電話会議等)																				
												販管費率 Prv: 40.8% Cur: 37.3%	研究開発費率 Prv: 3.8% Cur: 3.6%	テーマの絞り込み 優先順位	開発	・新素材の開発 ・IoTの取り組み ・エアレーション他技術開発 ・マスク次期モデル開発	・ナノファイバー製エアフィルタ製品化加速 ・各得意先各種センサー試験品供給 ・産学連携による新素材開発の加速 ・高機能マスク、布マスク開発																
																人件費率 Prv: 16.1% Cur: 16.6%	最適な人員構成	人事・総務	・タレントマネジメント制度策定・運用	・次世代マネジメント層の発掘 ・製品開発に向けた研究要員の増員 ・事業再編にかかる職業専門家スタッフの採用													
																			売上債権回転率 Prv: 3.9 Cur: 4.0	債権管理	営業 財務経理	・債権回収率の改善	・運転資金改善に向けた債権回収の効率化・合理化対応										
																						運転資本回転率 Prv: 3.0 Cur: 7.7	棚卸資産回転率 Prv: 5.4 Cur: 5.8	適正在庫の設定	生産 営業	・全社棚卸資産の圧縮	・棚卸資産のパレート分析に基づく適正在庫量の決定ならびに削減計画の実行中						
																										仕入債務回転率 Prv: 5.4 Cur: 3.8	債務管理	SCM 生産	・ワーキングキャピタル改善	・運転資金の改善に向けた債務支払い回転率の適正化			
																													有形固定資産回転率 Prv: 2.0 Cur: 1.3	設備計画 (R&D・生産)	経営企画 総務・生産・開発	・投資回収効果最適化	・投資収益回収期間の妥当性分析による開発及びR&D投資、優先判断の実行
																																固定資産回転率 Prv: 1.6 Cur: 1.4	無形固定資産回転率 Prv: 43.1 Cur: 57.9

2022年3月期 通期業績予想

建機用フィルタ事業

- 日本、北米、欧州、アジアにおける**建機新車需要の回復と稼働時間の増加に伴い、当社の売上高も大幅に増加し**感染拡大前の水準に回復、**今後も堅調な推移を見込む**
- コロナウイルスの変異種による感染再拡大懸念、原材料価格の高騰、半導体等部材不足リスク、コンテナ不足の影響に伴う輸送コスト高騰リスク、ワクチン供給の遅れによる経済への悪影響など先行きの見通せない状況の継続を踏まえ通期業績予想は据え置き

エアフィルタ事業

- コロナワクチン接種の進展により、2022年3月期第2四半期以降はオフィスビルの稼働率増加に伴い、既存製品交換需要の増加を見込む
- ナノファイバー製エアフィルタや溶菌・酵素エアフィルタといった新製品の供給開始により業績の回復を見込むことから通期業績予想は据え置き

ヘルスケア事業

- 家庭用マスク市場におけるウイルス感染予防に対する意識の定着により需要は底堅く推移することを見込む
- 医療用マスク市場において、DS2の認定取得に伴う医療用マスク市場では、海外製のN95マスクが圧倒的主流であることから長期的な視点で同市場の開拓を進める
- マスク量産体制については、製造工程の確立は順調に進展し、第2四半期に予定されている**全自動化ラインの導入による生産の合理化により大幅な原価低減を見込む**ことから、通期業績予想は据え置き

		2020/3期 実績	2021/3期 実績	2022/3期 予想	前期比
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減額 (百万円)
売上高		12,674	14,587	16,600	2,012
	建機用フィルタ※	11,296	10,970	12,000	1,029
	エアフィルタ	1,377	2,607	3,000	392
	ヘルスケア	-	1,009	1,600	590
営業利益		777	△145	1,500	1,645
	建機用フィルタ※	1,824	1,289	2,307	1,018
	エアフィルタ	188	123	400	276
	ヘルスケア	-	△150	240	390
	全社費用	△1,235	△1,408	△1,447	△39
	営業利益率	6.1%	△1.0%	9.0%	-
経常利益		603	△135	1,470	1,605
	経常利益率	4.8%	△0.9%	8.9%	-
当期純利益		608	750	960	209
	当期純利益率	4.8%	5.1%	5.8%	0.6Pt
為替レート (円)	USD	108.8	106.1	105.0	△1.0%
	EUR	120.8	123.7	125.0	1.0%

※「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます

*各セグメントの業績及び全社費用をよりの確に把握するため、当社の各報告セグメントに帰属しない本社及び一部子会社の管理部門の一般管理費等の全社費用につきましては、全社費用を別掲することにより、当連結会計年度より、所定のセグメントに配賦しない方法に変更しております

	2020/3期 実績		2021/3期 実績		2022/3期 予想		前期比	
	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	増減額 (百万円)	増減率
建機用フィルタ	9,866	77.8%	9,713	66.6%	10,748	64.7%	1,034	10.7%
ライン品	4,129	32.6%	4,178	28.6%	4,690	28.3%	511	12.2%
補給品	5,737	45.3%	5,534	37.9%	6,057	36.5%	523	9.5%
産業用フィルタ	492	3.9%	470	3.2%	464	2.8%	△6	△1.3%
プロセス用フィルタ	937	7.4%	786	5.4%	787	4.7%	1	0.2%
建機用フィルタ 合計	11,296	89.1%	10,970	75.2%	12,000	72.3%	1,029	9.4%
エアフィルタ	1,377	10.9%	2,607	17.9%	3,000	18.1%	392	15.1%
ヘルスケア	-	-	1,009	6.9%	1,600	9.6%	590	58.5%
売上高合計	12,674	100.0%	14,587	100.0%	16,600	100.0%	2,012	13.8%

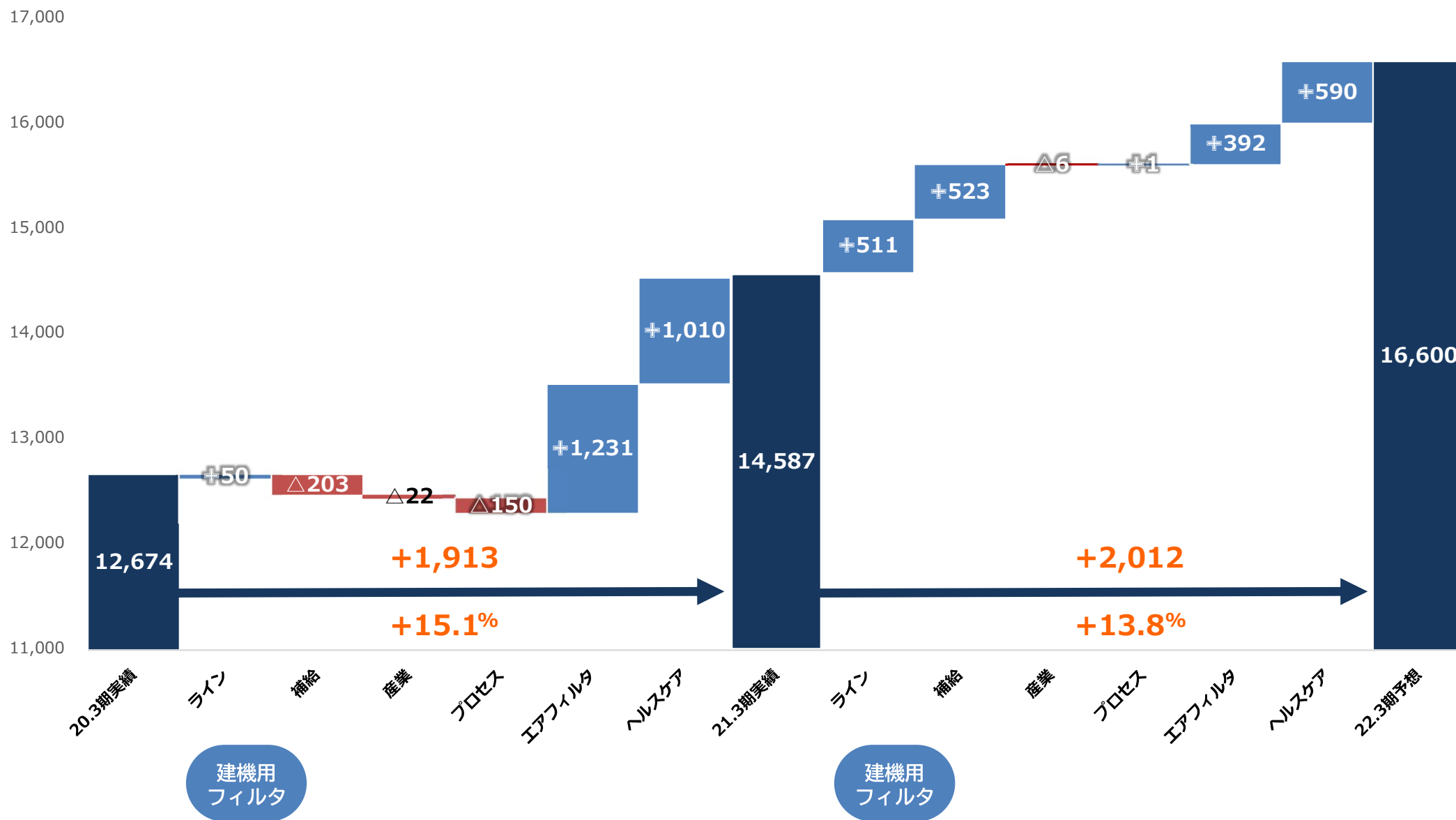
	2020/3期 実績		2021/3期 実績		2022/3期 予想		前期比	
	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	増減額 (百万円)	増減率
建機用フィルタ*	11,296	89.1%	10,970	75.2%	12,000	72.3%	1,029	9.4%
国内	5,420	42.8%	5,019	34.4%	5,437	32.8%	417	8.3%
北米	2,313	18.3%	1,915	13.1%	2,226	13.4%	311	16.2%
中国	1,173	9.3%	1,552	10.6%	1,727	10.4%	174	11.3%
アジア	1,319	10.4%	1,235	8.5%	1,311	7.9%	75	6.1%
欧州	1,065	8.4%	1,243	8.5%	1,296	7.9%	53	4.3%
その他（中東他）	4	0.0%	3	0.0%	0	0.0%	△3	△100.0%
エアフィルタ（国内）	1,377	10.9%	2,607	17.9%	3,000	18.1%	392	15.1%
ヘルスケア（国内）	-	-	1,009	6.9%	1,600	9.6%	590	58.5%
売上高合計	12,674	100.0%	14,587	100.0%	16,600	100.0%	2,012	13.8%

※「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます

* 当社は請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます

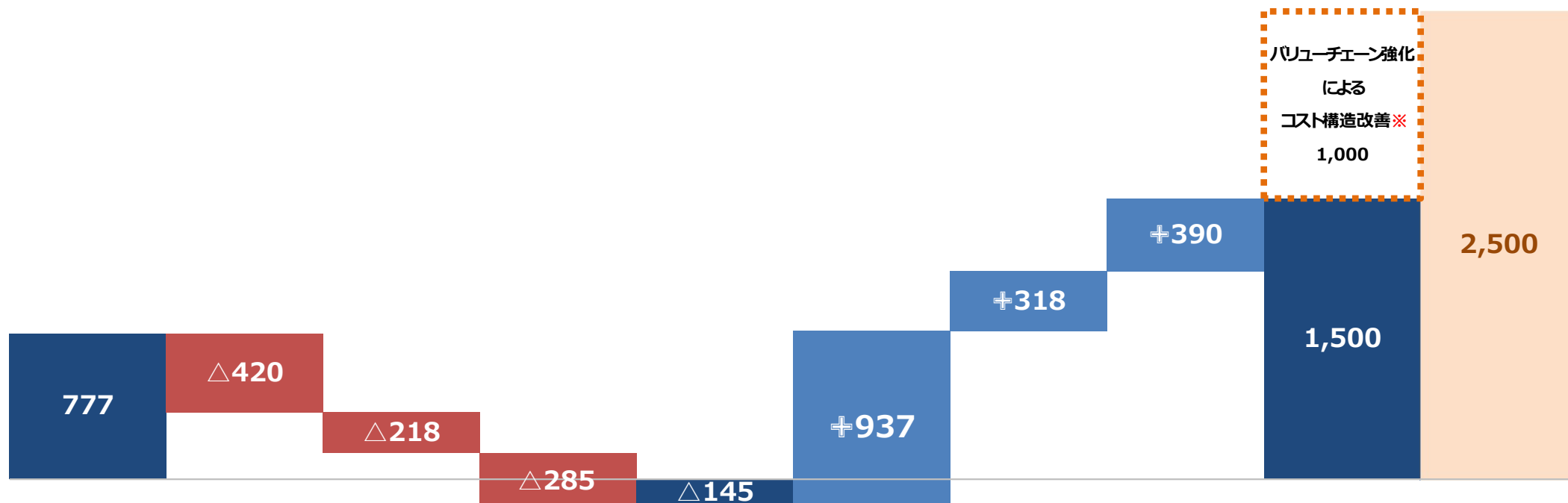
売上高の増減要因 (2022.3期見通し)

(単位：百万円)



（単位：百万円）

※
建機、エアフィルタ、ヘルスケア各事業において
コスト構造改革を実施し、収益性改善を図る



営業利益率
6.1%

20
3
期
実績

(建機事業) 航空便等 営業費用増加 による減益	(エアフィルタ事業) 稼働に伴う 一時費用増加 による減益	(ヘルスケア事業) 量産体制遅延 及び新規事業 立上げに伴う 営業費用増加 による減益
-----------------------------------	--	--

営業利益率
△1.0%

21
3
期
実績

(建機事業) 販売増加及び 物流コストの 正常化に伴う 増益	(エアフィルタ事業) 販売増加及び 生産地最適化 に伴う原価低減 による増益	(ヘルスケア事業) 販売増加及び 量産体制確立 に伴う原価低減 による増益
--	--	---

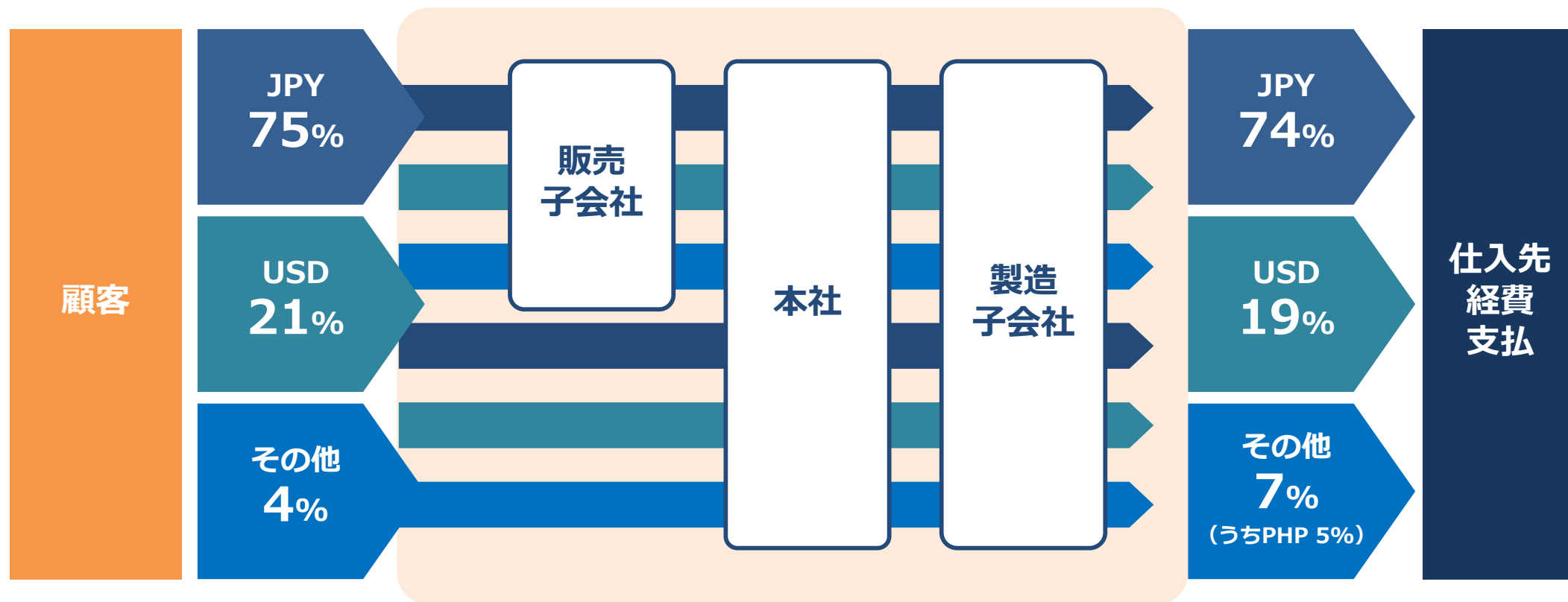
営業利益率
9.0%

22
3
期
【公表】予想

営業利益率
15.1%

【22
3
期の
本来の
収益力の
目標】

為替は完全マリーが継続している。



取引通貨の8割は J P Y

U S Dは為替マリーを実現

- 為替が1円円高になった場合の営業利益影響額は約 4 百万円増益

中間配当3.0円、期末配当3.0円の年間6.0円

	19年3期	20年3月期	21年3月期	22年3月期 予想
1株当たり 年間配当金	6.0円	6.0円	6.0円	6.0円
DOE ^{※1}	2.4%	2.3%	2.2%	2.1%
総還元性向 ^{※2}	31.9%	72.3%	59.3%	46.3%

※1 DOE（株主資本配当率）＝（年間配当総額÷株主資本）×100＝（ROE×配当性向）

※2 総還元性向＝{(配当金総額＋株主優待＋自己株式取得)÷親会社株主に帰属する当期純利益}×100

思

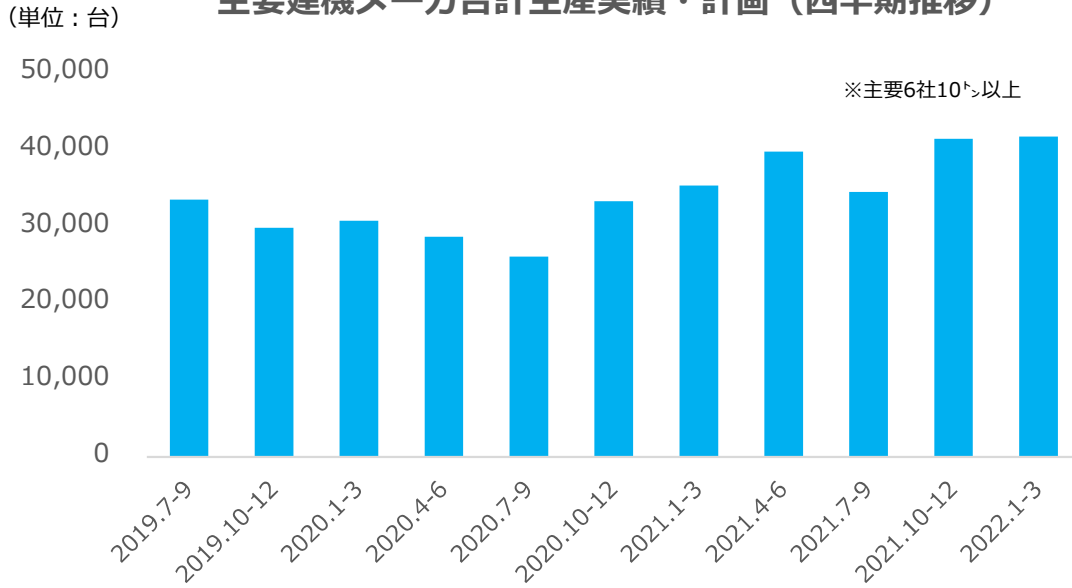
Ⅱ 市場を取り巻く環境

“建機市場を取り巻く環境”

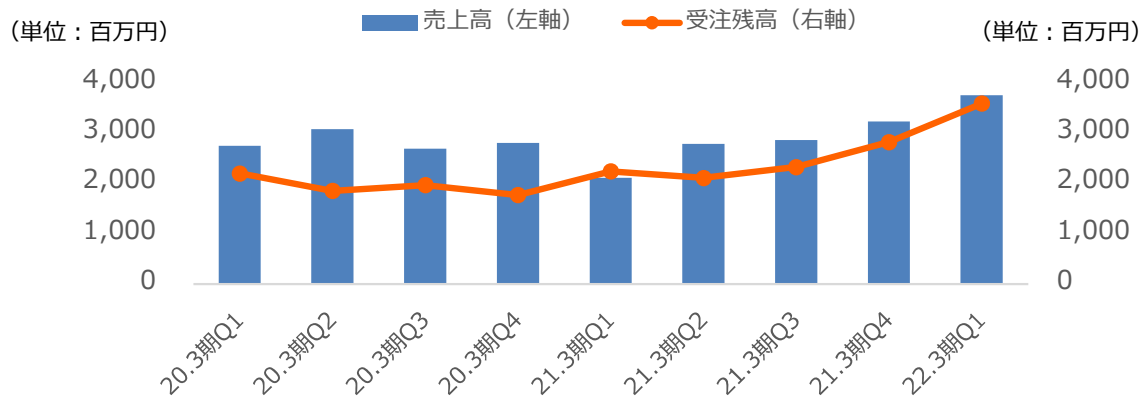
- 停滞していた主要得意先各社の生産活動は各国で再開
- 需要は増加し新型コロナウイルス感染拡大前の水準に回復
- 経済活動の本格的な再開に伴い、中国・北米市場の需要は大幅に増加

	2021/3 Q4	2022/3 Q1	今後の見通し
中国	経済活動の本格的な再開に伴い、産業補助金拡大による政府主導の投資促進策や消費刺激策の効果に伴い新車需要が大幅に増加	需要は前年度に比べやや減少すると見込まれるが、需要は堅調に推移	政府主導による公共事業投資の増加や2022年度以降に予定されるTier4対応に向けた駆け込み需要等により大幅な需要の増加を見込む
東南アジア	主要得意先各社の生産活動は再開、建機稼働時間も底打ち感があり通常オペレーションへ回復基調	主要得意先各社の生産活動は再開、建機稼働時間も底打ち感があり通常オペレーションへ復帰	新型コロナウイルスによる規制強化リスクは残るが、経済活動の再開に伴い建機需要の回復を見込む
北米	主要得意先各社の生産活動は再開され需要は増加、新型コロナウイルス感染拡大前の水準に戻りつつある	主要得意先各社の生産活動は再開され需要は増加、新型コロナウイルス感染拡大前の水準まで回復	新型コロナウイルス感染拡大前の水準に戻り需要は大幅な増加を見込む
日本	新型コロナウイルス感染拡大の影響が少なかった公共工事を中心に建機の需要は堅調に推移	新型コロナウイルス感染拡大の影響が少なかった公共工事を中心に建機の需要は引き続き堅調に推移	土木系は増加基調、住宅投資及び民間設備投資は下期に向けて回復し、建機の需要は増加を見込む
欧州	新型コロナウイルス感染拡大前の影響から回復基調	新型コロナウイルス感染拡大前の影響を克服	建機の新車需要、レンタル需要共に建機の需要は増加を見込む

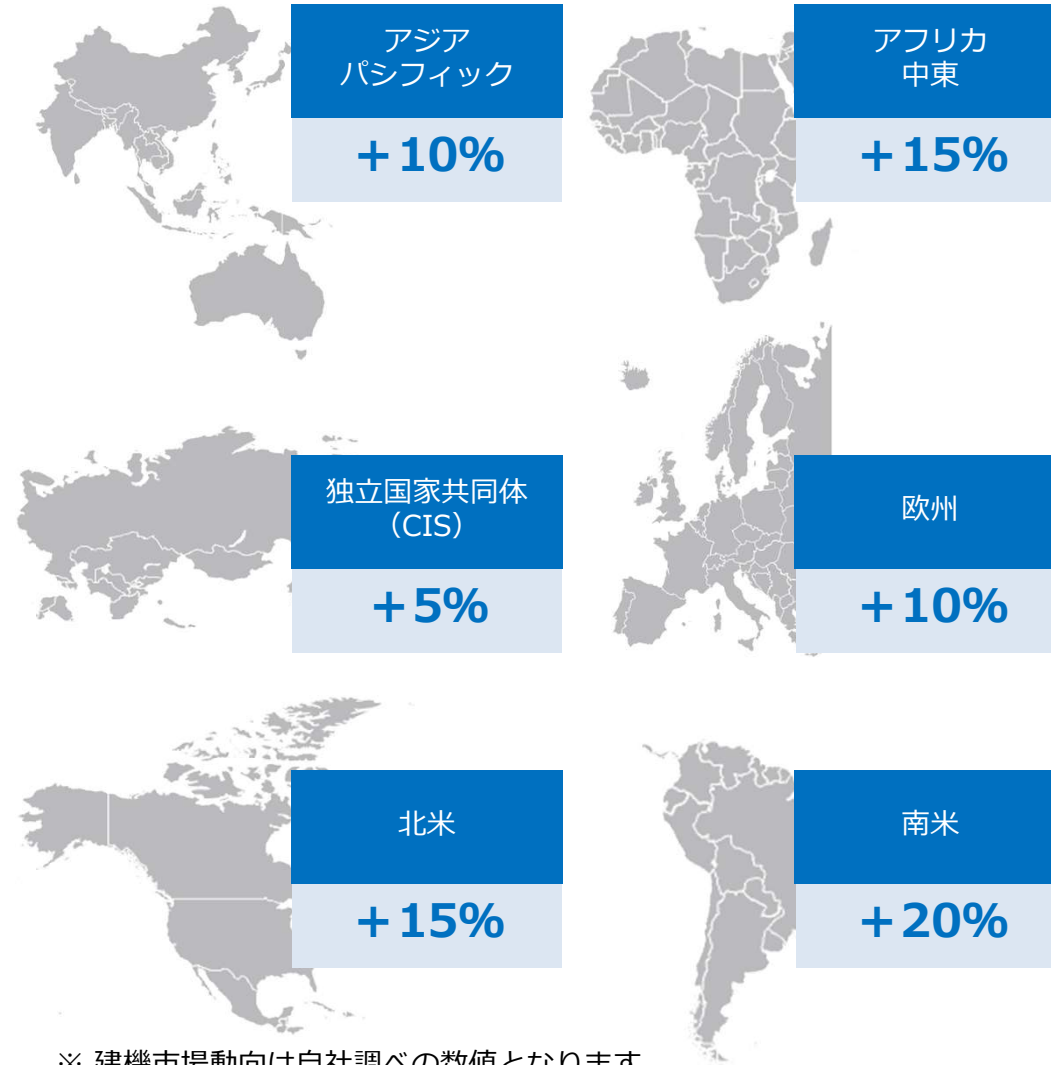
主要建機メーカー合計生産実績・計画（四半期推移）



当社の建機用フィルタ売上高と 確定受注残高（四半期推移）



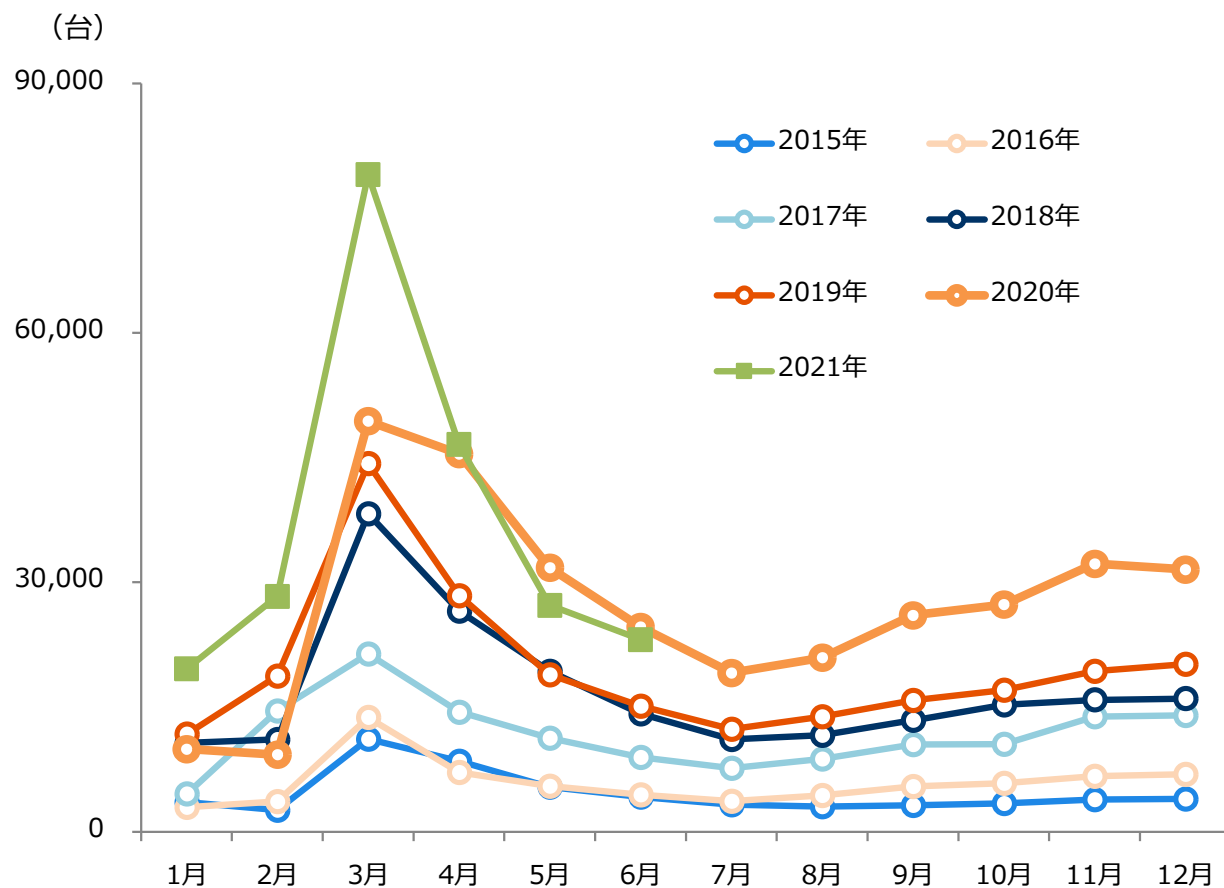
全世界建設機械市場動向



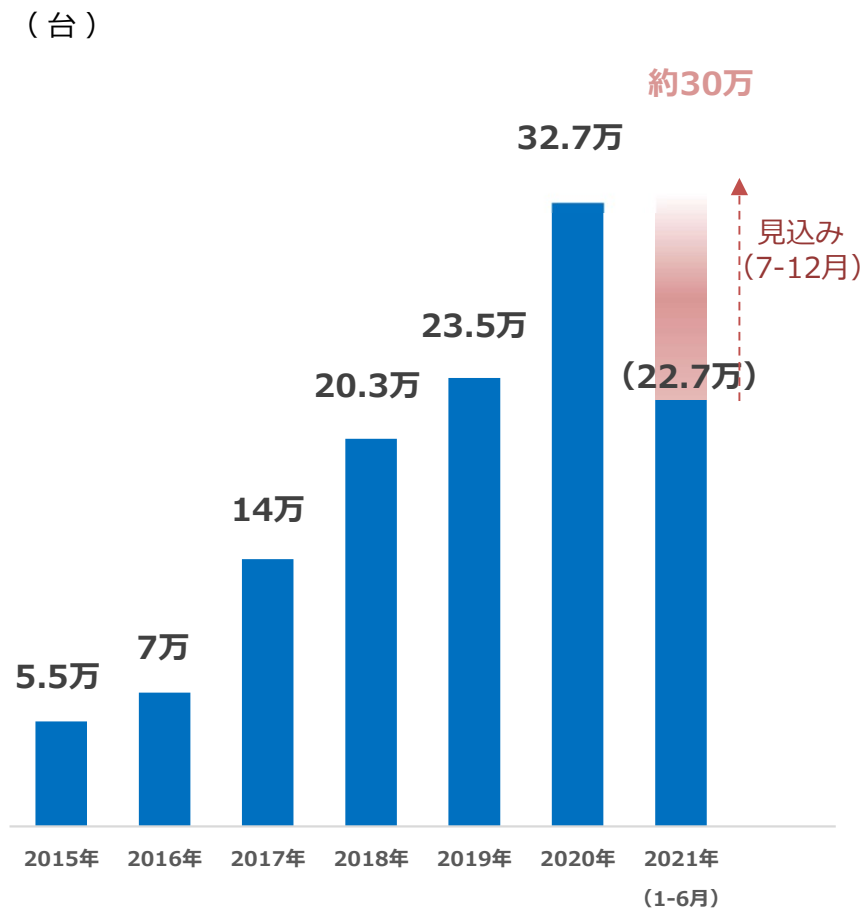
※ 建機市場動向は自社調べの数値となります

● 2020年の中国建機需要は大規模公共投資に下支えされ好調

販売台数年・月別推移



年間販売台数推移



(各建機メーカーおよび工業会公表データより当社推計)

- メインテーマは、ライフサイクルコスト改善、主要建機メーカー各社では、開発パイプラインが進行中。

先進国市場で求められる

製品性能と当社の施策

ロングライフ化

フィルタにナノファイバー素材を活用



YAMASHIN
Nano Filter

ロングライフ化が可能になり、交換コスト削減可能

IoTセンサ

フィルタ寿命や作動油の汚染度をセンサーで測定



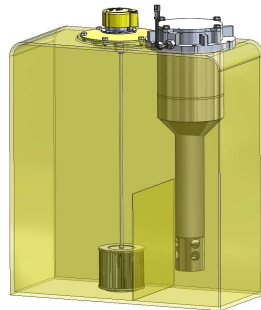
機体の故障に対する予防保全が可能

エアレーション対策

作動油に混入する細かな気泡を除去

機体の作動油総量を削減することでコストを低減

油量を削減することでタンクの小型化を実現



北米大手建機メーカー様のシェア情報

■油圧フィルタシェア

	2020	2021	増減
車両建機	27%	36%	9%
鉱山建機	11%	15%	4%
林業機械	30%	30%	0%

■TMフィルタシェア

	2020	2021	増減
車両建機	82%	86%	4%
鉱山建機	45%	54%	9%
林業機械	62%	62%	0%

■その他フィルタシェア

	2020	2021	増減
車両建機	12%	15%	3%
鉱山建機	9%	11%	2%
林業機械	18%	18%	0%

- SDGsに対応するサステナブルな製品として、主要取引メーカー製品の廃棄量削減・CO²排出の大幅な削減に貢献。

ロングライフ化

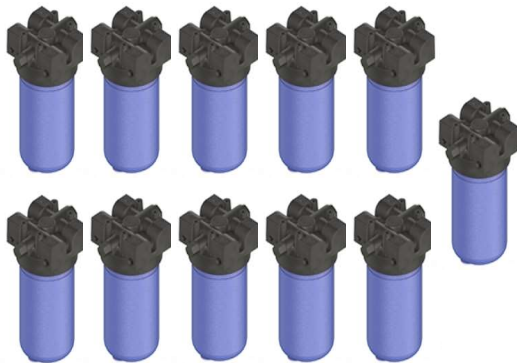
ロングライフ化により
貢献するSDGs目標



交換時間の延長による廃棄量削減

機体寿命12,000hrと仮定したときの交換回数比較

廃棄量は1/2以下を
実現することが可能



現行品

フィルタ交換本数=11本
(現行品は1000h交換)



ロングライフ実施後

フィルタ交換本数=5本
(当社提案品は2000h交換)

材質変更によるCO²排出削減

エレメント（樹脂）タイプに変更することで

約5.7倍 排出量を削減！



1.7kg

現行品



0.6kg

開発新製品

材料	CO ₂ (1kg)
鉄	100%
樹脂	50%

上記を仮定とした場合、

170 → 30

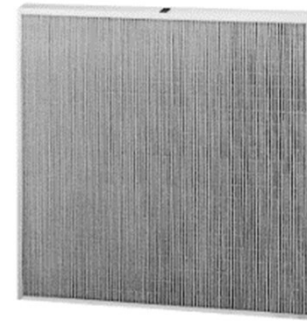
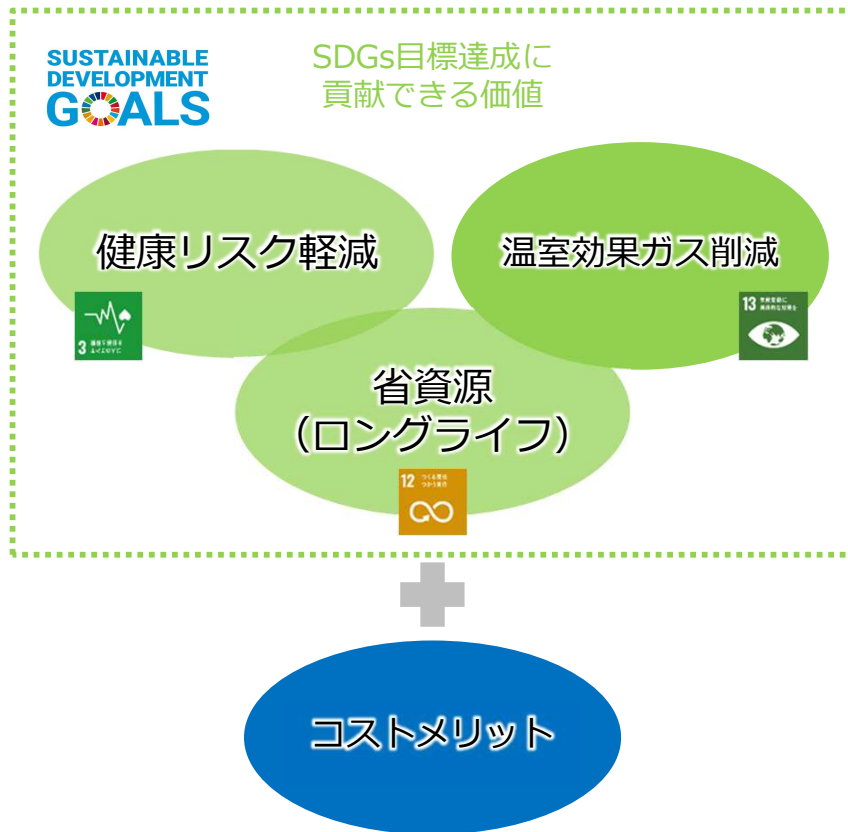
“エアフィルタ市場を取り巻く環境”

- COVID-19の影響により最大市場であるビル・建物の交換需要で買い控えが発生。
- 需要増加が見込まれる半導体・車両市場に注力した取り組みを開始。

	市場概要	市場環境	
		2021/3期	2022/3期
ビル・建物	オフィス・商業ビル等に設置されている外気取入れユニット・屋内空調等のエアフィルタ	↓ オフィス・商業ビルの交換控えが影響して需要減少。	→ オフィス稼働率の減少が継続する見込みで需要は回復傾向。
一般工場	工場に設置されている外気取入れユニット・屋内空調等のエアフィルタ	→ 大型工場は交換控えが発生したが、小型工場の新規受注あり、需要横ばい。	→ 前期と傾向は継続する予想。
半導体工場	ケミカルフィルタの交換市場	↑ 在宅勤務を背景に、PC機器を中心に需要増加。	↑ 5G、車載用が牽引し、ケミカルフィルタ需要増が継続。
環境機器	一般家庭で使われる住宅空調・空気清浄機のエアフィルタ	↓ COVID-19の影響から、住宅着工件数が減少し、需要減少。	→ 住宅着工件数は継続して下降トレンドだが、空気清浄機の需要増加が下支え。
車両	鉄道等の空調用エアフィルタ 建機の粉塵用エアフィルタ	↓ COVID-19の影響により、公共交通機関の交換控えが発生して、需要微減。	↑ 公共交通機関の交換需要の取り込み、建機需要の高まりから需要増加。

- 温室効果ガス削減と健康リスクを軽減するナノフィルタ製マスク、Nano WHELPを積極展開、事業を通じた課題解決で社会に価値を提供。

Nano WHELPが
社会に提供できる価値



新製品 Nano WHELP

Nano Wonderful High Efficiency Low Pressure

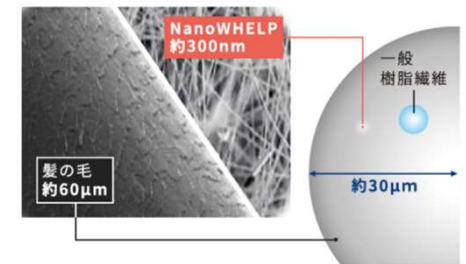


MERV14
(米国規格)

【MERVとは】
米国のフィルタの規格(ASHRAE 52.2(2007))で
MERV1からMERV16まであり、MERV14は0.3~
1μmの粒子捕集率が75%以上、85%未満とされて
います。

製品特徴

建機用フィルタの開発技術を転用した自社開発のナノレベル繊維を使用することで、持続的な低圧損を実現。



髪の毛 (手前) とナノファイバーの拡大写真

PM2.5の捕集効率95%以上

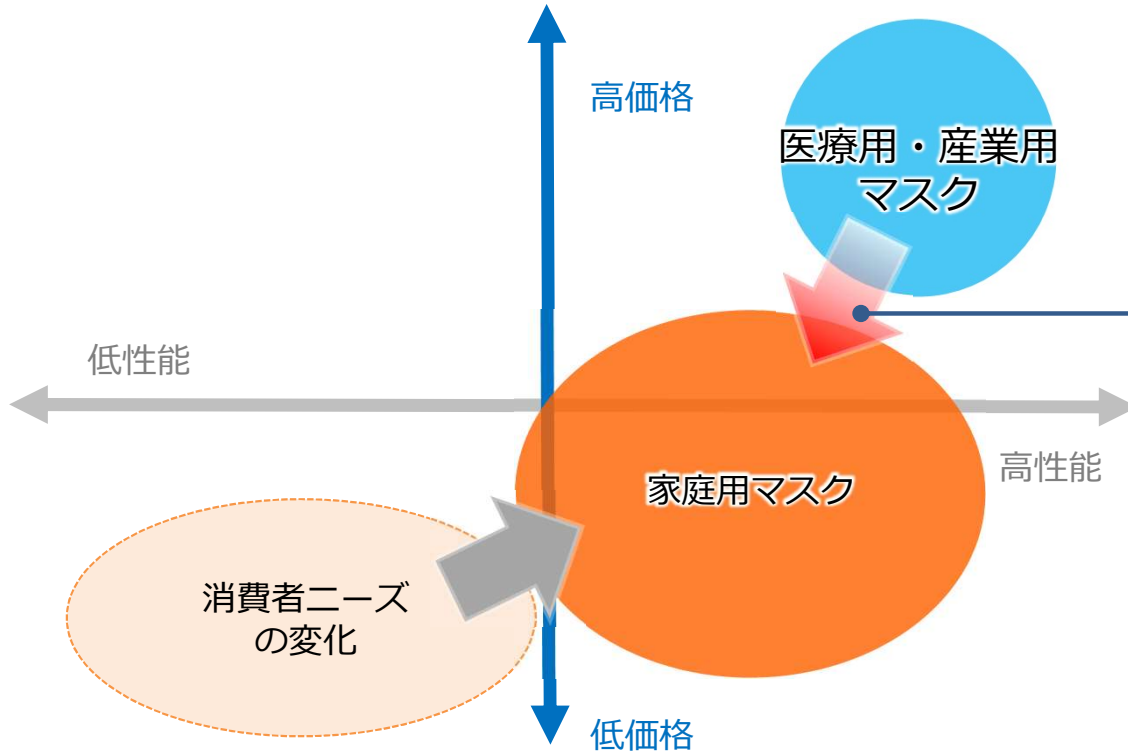
- ・圧倒的なフィルタ性能
- ・交換インターが長くコスト減に貢献
- ・価格競争力がある

投入想定市場

データセンターやサーバー
室・IT化された工場・
公共施設・医療施設など

“マスク市場を取り巻く環境”

マスク市場のセグメンテーションとヤマシンの戦略



ヤマシンの目指す戦略

中長期的に得る
医療・産業用マスクで得る
ノウハウやブランドを活かし
家庭用マスクへ展開

ヤマシンの持つ つよみ

約70年培った

モノづくりを極めるDNA

- 1 安全・安心な
国内生産供給体制を構築
- 2 世界トップレベルの
ろ過技術
- 3 革新的
ナノ立体構造
フィルタ



建機用フィルタを
突き詰めた結果
開発できた新技術

1年目 (2020)
販路拡大施策

2年目 (2021)
ラインナップの
充実

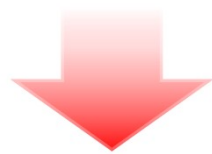
3年目 (2022-)
ブランド力強化

売上拡大のための営業方針

1年目で確立した販路に、競争力のある製品ラインナップを展開することで売上拡大、ヤマシンのブランドの本格的な認知拡大を図る

- 主要小売チャネルにおける当社製品の配荷実績は、15,000店舗（累計）に到達
- 今後は高品質の需要を取り込むために、売り場での存在感を強化する施策に取り組む

チャネル	配荷実績	今後の取り組み
ドラッグストア	10,000店舗	<ul style="list-style-type: none"> ● フェイス数の獲得 ● 商品ラインナップの拡充 ● 販促企画の積極的な展開



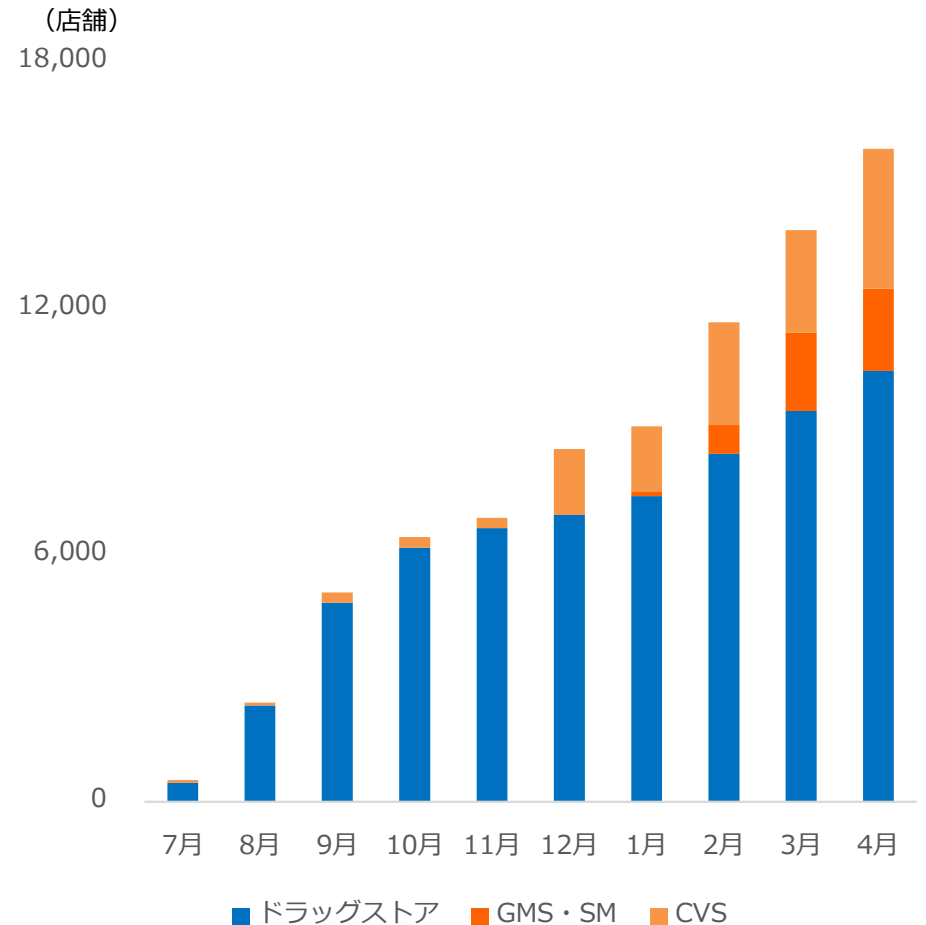
取り組みの成果例

確立した販路に、競争力のある製品ラインナップを展開し、ブランド価値向上を図ったことの結果として、政府要人などが公式の場においてヤマシン製ナノフィルタマスクを着用するなど、施策が奏功した実績が増えている。

今後も継続して、感染予防のステイタス・シンボルとして「YAMASHIN Nano Filter」のブランド価値を高める。



当社製品の配荷実績（累計）



- 医療用マスクの開発で取得した国家検定規格（DS2）・製品性能の高さを活かし、モノづくりの現場への主力製品ゼクシード6240の供給を開始。



産業分野 導入実績

大手建機メーカー
Tier1企業

サンプリング調査実施の結果、DS2の基準を満たしているにも関わらず、息がしやすく、長時間利用も可能な性能が高く評価され、導入が決定。

ゼクシード6240の特徴

独自設計のゼクシード型 立体プリーツ形状※



製品の特長

息のしやすさ

ソフトな
着け心地

フィルタ性能の
高さ

未来

Ⅲ 今後の戦略

ろかじにつかふる
仕濾過事

経営理念

顕在する
様々な社会課題

気候変動

廃棄物処理

生物多様性の減少

新型コロナウイルスの拡大

「仕濾過事」(ろかじにつかふる)を具現化

**フィルタビジネスを通じて
社会課題の解決に取り組む**

経営理念：**「仕濾過事」**（ろかじにつかふる）の具現化



新素材・新技術による環境対応で製品需要の拡大を目指す



総合フィルタメーカーのヤマシンだからできた
医療用レベルの高機能マスクの製造・発売を開始



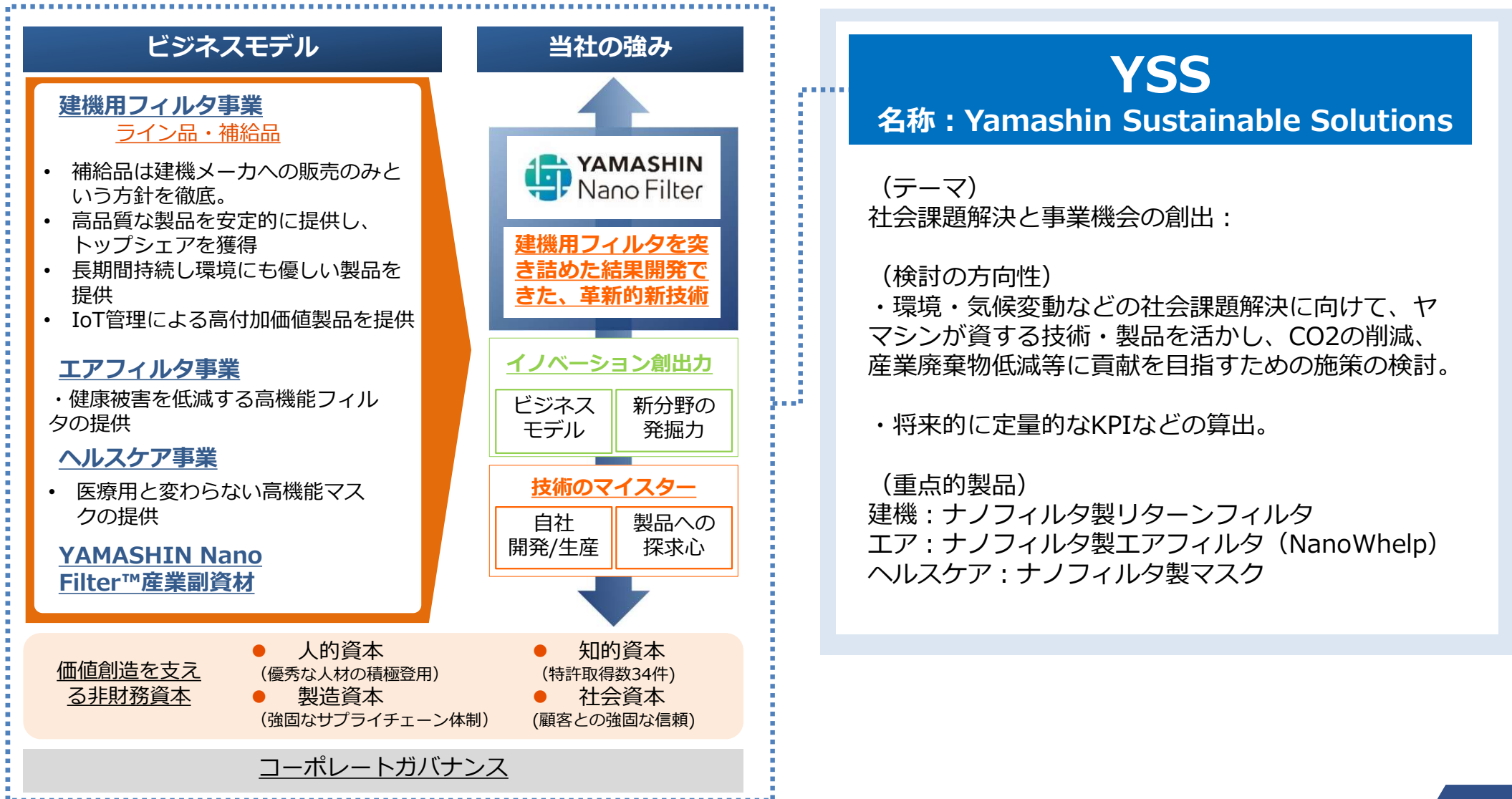
エアフィルタ事業の事業拡大による
大気汚染の防止に貢献

経営理念：「仕濾過事」(ろかじにつかふる)の具現化

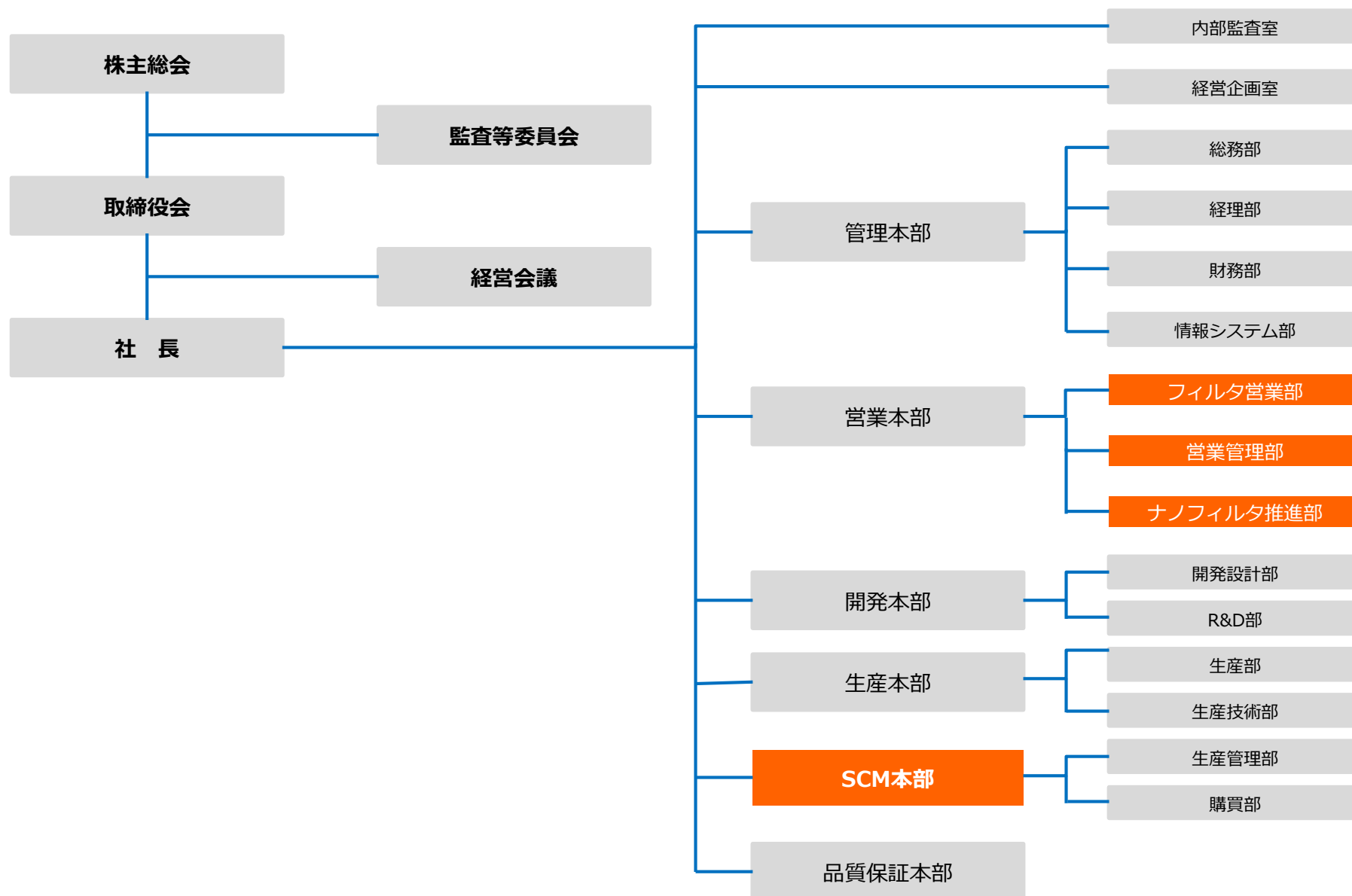


※具体的削減KPIは参考資料をご覧ください

当社のビジネスモデル・強みをサステナブルの観点からより強化するため 社内プロジェクト（YSS）を発足



2021年4月1日より新組織が始動、より機動的な組織体制を構築。



バリューチェーンの向上

バリューチェーンの強化により、
本来の収益力である

連結営業利益25億円

営業利益率15%を目指す

合計**10億円**の付加価値を創出

強化する
施策

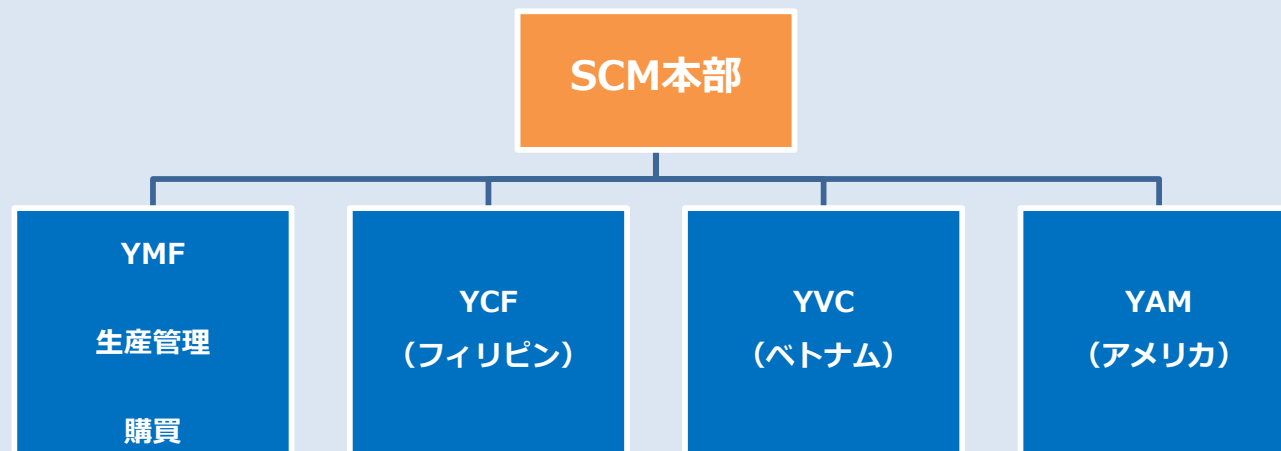
1	建機用フィルタビジネス PAC21、航空運賃の抑制、固定費削減、経費削減による収益性改善	3	ヘルスケアビジネス マスク生産設備投資による製造ライン自動化、省力化による固定費削減、製造原価低減販売促進費、広告宣伝費等の効率運用
	エアフィルタビジネス YCF生産移管、SAP導入（原価管理体制強化）による製造原価低減PAC21、固定費削減による収益性改善、不具合低減		サプライチェーン強化 生産拠点再編（新佐賀工場、ベトナム工場（新設）、北米工場）生産能力大幅増強、製造コスト低減

サプライチェーンの強化

組織体制を再編し、

SCM本部を設置。

一極集中生産体制から、
マルチプル生産体制への移行し、
SCM本部がグローバル生産活動を統括



建機用フィルタ

YCF (生産)

YST (販売・R&D)

YAI (販売・生産)

YTL (販売)

YEB (販売)

The Specialist in Filtration
YAMASHIN 
建設機械フィルタの専門メーカーから
「総合フィルタメーカー」へ
飛躍を加速



YAMASHIN Nano Filter™産業資材

ヘルスケア

アパレル

家電

自動車内装

生活用品



エアフィルタ

(販売・生産)

目次

参考資料

① 当社の取組みについて



新素材・新技術による環境対応で製品需要の拡大を目指す

■ 建機市場におけるシェアアップ

付加価値向上による機械故障件数の減少・建機寿命の延長



環境負荷低減

稼働時間 3倍

ハイブリッドフィルタ
ガラス繊維×ナノファイバー



IoTによる「故障予知」を実現

清浄度センサ

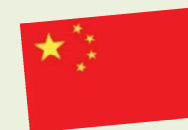
- ・油、水の清浄度測定
- ・低コスト
- ・コンパクト設計

ライフセンサ

どのくらいフィルタにゴミが詰まっているか、段階的なモニタリングを行う

■ 中国市場 環境対応で新規顧客獲得

高品質なろ過精度フィルタにて
CO2削減に貢献



第4次環境規制対応に向けた
新車需要の取り込みを加速

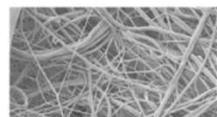


総合フィルタメーカーのヤマシンだからできた 医療用レベルの高機能マスクの製造・発売を開始

ヤマシンマスクの 3つの特長

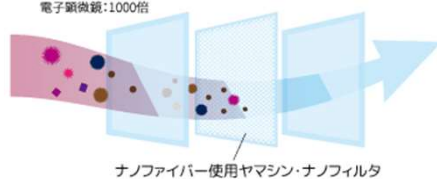
1. 微細構造でウイルスをキャッチ
2. 長時間使用しても性能低下はわずか
3. 安全・安心な国内生産供給体制を構築

ヤマシン・フィルタマスク/フィルタシート



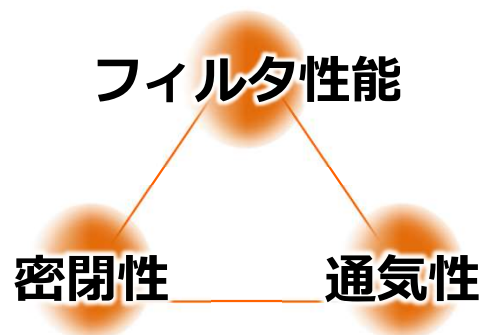
非常に目の細かい
3次元多層構造の
ナノファイバーフィルタで
ウイルス等を捕集する

電子顕微鏡:1000倍



ナノファイバー使用ヤマシン・ナノフィルタ

ろ過理論を適用した ヤマシンマスクの新基準



- フィルタ性能、密閉性、通気性の3要素に対してコダワリ抜いた次世代マスク「ゼクシード」を発表

エントリーモデル

2020年9月4日より
全国ドラッグストアにて
販売開始



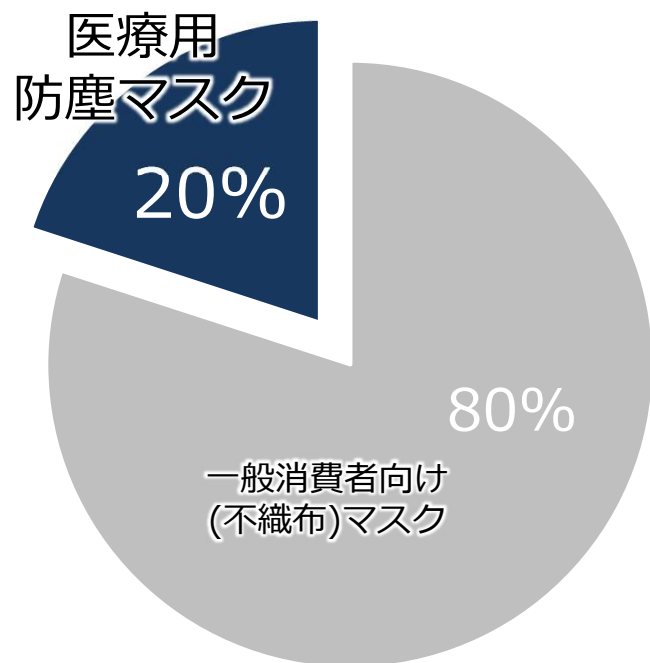
フラッグシップモデル

2020年9月1日
ECサイトにて販売開始





**医療用防塵マスク分野でも認証を取得予定。
シェア拡大を目指すとともにさらなる開発を継続**



■ 一般消費者向け(不織布)マスク ■ 医療用防塵マスク

今後の開発方針-ラインナップ拡大

医療現場等で必要とされる更なる高機能マスクの認定取得予定（日米欧の各認証*）
一般消費者向け市場では、独自技術を活かして形状を差別化し、より高機能なマスク開発を継続

- ① フィルタ性能（N95規格最高値）
- ② 漏れ量（1%未満の超気密性）
- ③ 呼吸のしやすさ において

他社をしのごう圧倒的な差別化を実現

*日本における国家検定規格（DS）、米国におけるNIOSH規格（N95）、および欧州におけるEN規格（FFP）

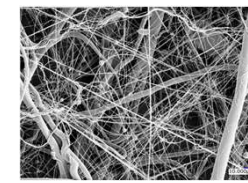
エレクトロスピンニング法



特性：
平面・均一な
細い繊維

*電子顕微鏡（2000倍）にて撮影

ヤマシナノフィルタ



当社の
独自特許技術

特性：立体・多
種な繊維が混在



エアフィルタ事業の事業拡大による 大気汚染の防止に貢献

■ 事業環境

新興国における経済発展に伴う深刻な空気汚染等
大気汚染のリスク増大

エアフィルタ市場は拡大を継続す
ると見込まれる

エアフィルタ市場 年平均成長率予測

3.5% (2050年まで)

■ 当社が貢献できること

フィルタの専門メーカーとして、高機能フィ
ルタで健康被害を低減

ライフサイクルの長期化によるメンテナ
ンスコストを低減



環境および社会課題解決を目的としたエクイティ・ファイナンス サステナビリティプロジェクトを実施

中期的持続的な事業成長と ESG への積極的な取り組みを両立させることを目的としたエクイティ・ファイナンスにより、110億円を調達予定

サステナビリティプロジェクトが創出するインパクト

プロジェクトによるアウトプット	アウトカム	インパクト
再エネ由来電力の購入 太陽光発電システムの導入	自社 電力に占める再生可能エネルギーの割合増	再生可能エネルギー 632 tCO2 <small>インパクト指標(年間)</small>
ナノファイバー生産設備の増設	ユーザー(建設) 建設用油圧フィルタのロングライフ化による廃棄量減	汚染防止及び抑制 4,000 トン
	メーカー(衣類・寝具) 合成ダウンによる天然ダウン使用量削減	陸域及び水生生物の多様性の保全 23 トン
	ユーザー(農業) 高断熱性農業用シートによる燃料消費量減	エネルギー効率 24,440 tCO2
ナノファイバーリサイクル設備の導入	ユーザー(建設など) 各種フィルタの廃棄量減	汚染防止及び抑制 (定性評価)
一般用マスク製造機械の増設	ユーザー(一般) 一般用マスクの増産	必要可能なサービスへのアクセス 2.3億 枚
医療用マスク製造機械の増設	ユーザー(医療従事者) 医療用マスクの増産	必要可能なサービスへのアクセス (定性評価)
ナノファイバー技術の研究開発	ユーザー(一般) セパレーターの開発による燃料電池普及拡大	グリーンな輸送 (定性評価)
	メーカー/ユーザー ナノファイバー高性能化(微細化、特性付加)	環境・社会側面に幅広い可能性

選定理由の セカンドパーティ・オピニオン

- 技術および素材の開発により、建設機械向けフィルタの提供を通じて建機の環境対応等への貢献を続けていること
- 全従業員の残業ゼロなど働き方改革を率先して進めてきたこと

今後の改善・注力ポイント

- CSR調達の推進などバリューチェーンを通じたESGの取り組み推進や、ESG情報の開示

出典元：株式会社日本総合研究所作成「Second Party Opinion」より

URL：http://www.Yamashin-filter.co.jp/ja/news/news_20200908_001/main/00/link/SecondPartyOpinion.pdf

事業を通じて約25,000トンのCO₂削減を目指す

■ サステナビリティプロジェクトが創出するインパクト

プロジェクトによるアウトプット	アウトカム		インパクト	
				インパクト指標 (年間)
再エネ由来電力の購入 太陽発電システムの購入	自社	電力に占める再生可能エネルギーの割合増	再生可能エネルギー	632t CO₂
<u>YAMASHIN Nano Filter™生産設備の増設</u>	ユーザ（建機）	建機用油圧フィルタのロングライフ化による廃棄量減	汚染防止及び抑制	4,000 t
	メーカー（衣類・寝具）	合成ダウンによる天然ダウン使用料削減	陸域及び水生生物の多様性の保全	23 t
<u>YAMASHIN Nano Filter™のリサイクル設備の導入</u>	ユーザ（農業）	高断熱性農業用シートによる燃料消費量減	エネルギー効率	24,440t CO₂
	ユーザ（建機など）	各種フィルタの廃棄量減	汚染防止及び抑制	(定性評価)
一般用マスク製造機械の増設	ユーザ（一般）	一般用マスクの増産	必要可能なサービスへのアクセス	2.3億枚
医療用マスク製造機械の増設	ユーザ（医療従事者）	医療用マスクの増産	必要可能なサービスへのアクセス	(定性評価)
<u>YAMASHIN Nano Filter™技術の研究開発</u>	ユーザ（一般）	セパレータの開発による燃料電池普及拡大	クリーンな輸送	(定性評価)
	メーカー・ユーザ	<u>YAMASHIN Nano Filter™の高機能化（微細化・特性付加）</u>	環境・社会側面に幅広い可能性	

出典元：株式会社日本総合研究所作成「Second Party Opinion」より

URL：http://www.Yamashin-filter.co.jp/ja/news/news_20200908_001/main/00/link/SecondPartyOpinion.pdf

世界トップシェアを誇る建機用フィルタ事業

建機用フィルタ事業は、インフラ整備の投資拡大及びアフターマーケットの強さを背景に持続的な成長が見込まれる

売上及び利益面で大きな貢献が予想される新規事業

多様な用途への活用が期待される「YAMASHIN Nano Filter™」が成長ドライバー











目次

参考資料

① 当社基本情報

当社グループは、フィルタのキーパーツである「ろ材」の主な材料であるガラス繊維や不織布及びフィルタの構成部品に使用される金属加工品や樹脂加工品等の仕入を行い、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタ、エアフィルタを製造しております。また、当社独自に開発した合成高分子系ナノファイバーを用いたオリジナルマスク及び取替用インナーシート

の製造・販売を2020年5月より開始し、2020年7月よりヘルスケア事業を新しい事業セグメントとして加えております。

分野	取扱製品	製品イメージ	売上構成 2022年3月期業績予想
建機用フィルタ	建機の駆動に不可欠である油圧回路の作動油、燃料のディーゼル・オイル、エンジン駆動に必要な潤滑油のろ過に用いられるフィルタ 用途: 様々な種類の建機		
産業用フィルタ	様々な業界に応用されている油圧ユニットの作動油や潤滑油のろ過に用いられるフィルタ 用途: 工作機械、冷凍用圧縮機、農業機械、船舶、鉄道車両、航空機やヘリコプター等の産業機械		
プロセス用フィルタ	顧客製品の製造工程で行われるろ過・分離に必要なフィルタ 用途: 電子部品、精密部品、液晶ディスプレイや食品等の業界		
エアフィルタ	粗塵、中高機能のエアフィルタ 用途: 一般ビル、ホテル、各種工場等の除塵・脱臭等		
ヘルスケア	合成高分子系ナノファイバーの特性である高捕集性能、密閉性、通気性を活かした高機能マスク、取替用インナーシート 用途: 国内外の一般消費者向け		

建設機械の稼働に不可欠なフィルタ 多様多彩なラインナップを提供

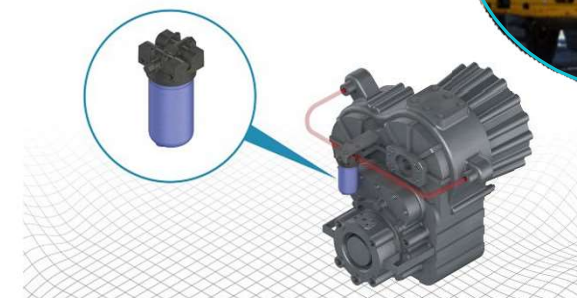
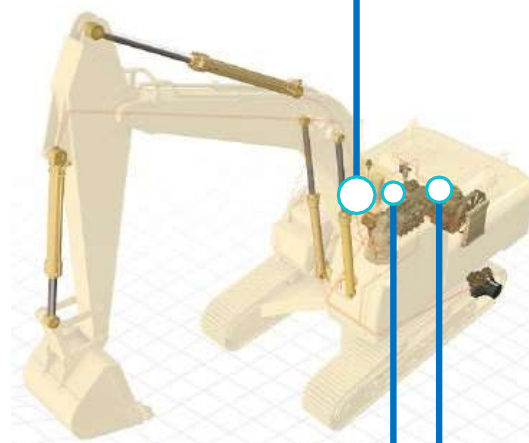
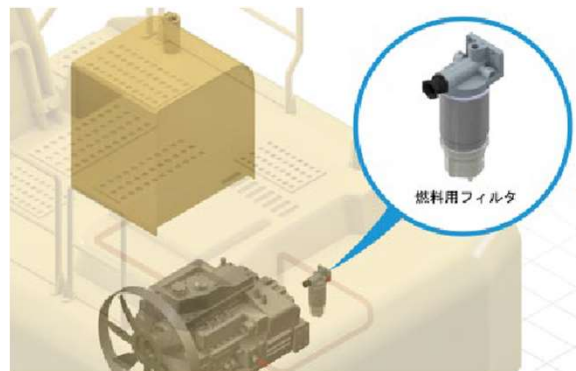


油圧用

シリンダー等の油圧機器の保護を目的に、建機に複数搭載されるフィルタです。建機の故障の原因は、約7割がオイル内のダストによる機器破損といわれています。当社では、創業以来のノウハウで最適なフィルタを提供しています。

燃料用

ディーゼル燃料に混入したダストの除去を目的としたフィルタです。昨今、世界的に進んでいる排ガス規制をきっかけに、燃料に求められる清浄度が高まっています。粗悪燃料が蔓延している新興国では、特に需要増が見込まれています。

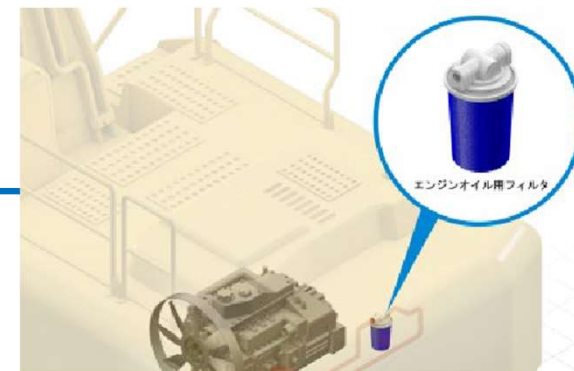


トランスミッション用

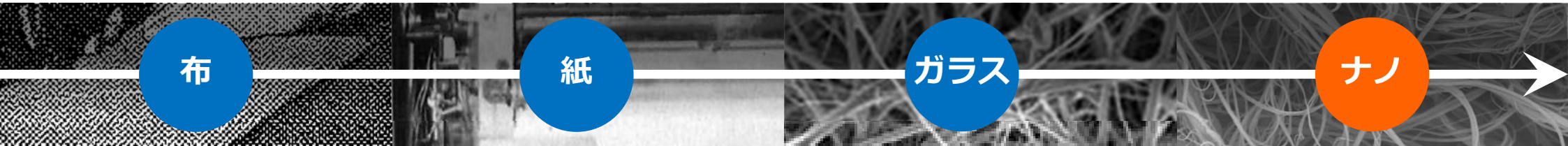
トランスミッション（変速機）機構を持つ建機に搭載されるフィルタです。トランスミッションは複数のギアで構成されるため、ギア同士の摩擦で金属粉等のダストが発生します。当社では自社製「ろ材」によってこのダストを適切にろ過し、機器のダメージを防ぎます。

エンジンオイル用

建機の各種エンジンに搭載されるフィルタです。エンジンの内部では動力を発生させるためにピストン等が高速運動をしています。エンジンオイル用フィルタは、その際に混入する摩耗（金属）粉やスラッジ（堆積物）等を除去し、性能低下や破損リスクを低減します。



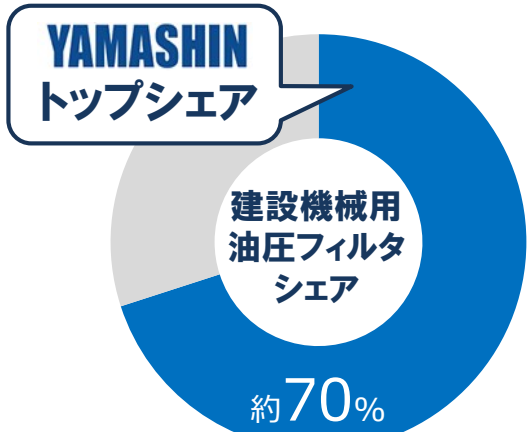
建設機械の進化に応じた、革新的なるろ材の研究開発力



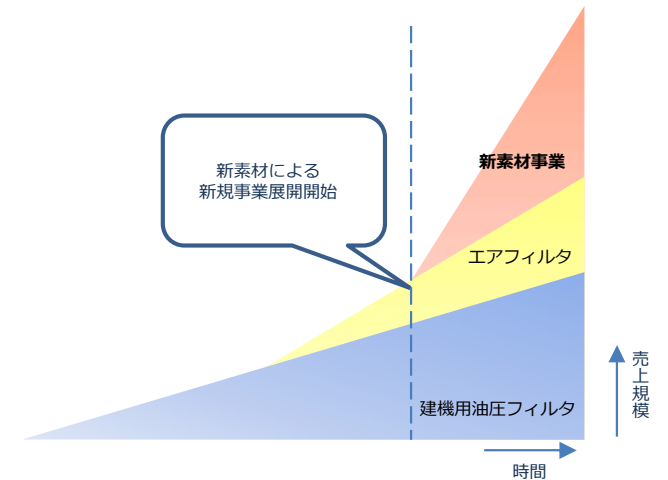
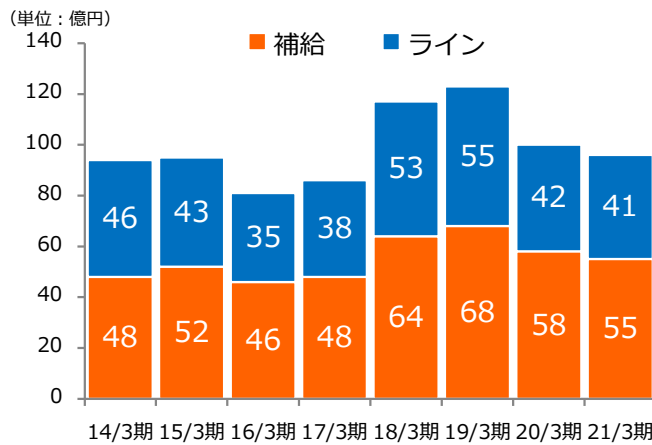
建機用油圧フィルタ市場での
圧倒的なシェア

新車需要・交換需要を取り込む
安定的な収益構造

新たに開発した革新素材による
ビジネス領域の拡大



国内における主要建機向け油圧フィルタ売上シェア（2012年度）
出典：矢野経済研究所



- 当社は効率的なインフラの整備に貢献してきた。
- 高い品質と豊富な実績に下支えされ、グローバル展開する日本・欧米・中国の大手建機メーカーに多くの製品が採用されている。

セグメント と KPI

- 建機用フィルタは「**ライン品**」と「**補給品**」に分かれる
- ライン品は新車搭載用のフィルタ。重要指標は「**新車需要台数**」
- 補給品は交換部品用のフィルタ。重要指標は「**稼働台数**」×「**稼働時間**」

販売形態 地域別動向 コスト削減

- **販売形態**

建機用フィルタの売上は、建機メーカーへの直接販売。エンドユーザーへの直販は基本的に行っていない

- **地域別動向**

地域別売上高は参考値。当社請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と異なる

- **PAC21 (Promptly Activated Cost reduction 2021)**

全社的なコスト削減プロジェクト

用語	計算式
MAVY's	ROIC - WACC
ROIC	NOPAT ÷ 投下資本
投下資本利益率	(経常利益+支払利息) ÷ 投下資本
運転資本回転率	売上高 ÷ (売上債権+棚卸資産-仕入債務)
固定資産回転率	売上高 ÷ 固定資産
売上債権回転率	売上高 ÷ 売上債権
棚卸資産回転率	売上高 ÷ 棚卸資産
仕入債務回転率	売上原価 ÷ 仕入債務
有形固定資産回転率	売上高 ÷ 有形固定資産
無形固定資産回転率	売上高 ÷ 無形固定資産
Key Goal Indicator(KGI)	当期：累計実績値+予算、前期：年間実績値
Key Performance Indicator (KPI)	累計実績値比較

※貸借対照表項目について期首期末平均で計算しております。

STRENGTH (強み)

- 建機用フィルタ市場における圧倒的なシェア
- **新素材導入による更なるシェア拡大**
- 高い研究開発力
- PAC、MAVY'sによる強固な経営基盤

OPPORTUNITIES (機会)

- 中国市場の拡大、更なるシェア獲得
- **「総合フィルタメーカー」への飛躍によるビジネス領域の拡大 (エアフィルタ、YAMASHIN Nano Filter™、ヘルスケア用品への進出)**

WEAKNESS (弱み)

- 売上高の約7割が建機用フィルタに依存
- 人的リソース不足の懸念

THREAT (脅威)

- 建機用フィルタの模倣品増加によるシェア低下
- 中国市場の変調
- プロセス/産業フィルタの成長未達
- **新素材商品展開の遅れ**

総合フィルタメーカーを実現し脱却予定

新素材による模倣品排除

育成事業

エアフィルタ

新素材事業

構造改革事業

STRATEGY MATRIX

基盤事業 (成長)

建機用
フィルタ

基盤事業 (安定)

ヤマシングループは、アフターコロナ時代を見据え、取引関係者、株主の皆様、従業員とその家族の安全と健康を第一とし、適切な事業継続とワークライフバランスの充実を目指す

勤務体制 テレワークを継続し、働き方改革を実践

従業員自身に健康状態に異変があった際、また感染した方の濃厚接触者と特定された場合は出社禁止、医療機関等の指示を厳守することを通知・徹底し、社員の健康・安全、安心を確保しております。

① 海外現地法人での勤務体制

本社（横浜市中区）、横浜開発センタ（横浜市磯子区）、横須賀メディアラボ（横須賀市）、アクシー（大阪市・東京都中央区）において、在宅勤務を推奨 ※2020/6/1より「原則在宅勤務」から「推奨」へ変更

② 時差出勤等の励行

満員電車による密集状態を避けるため、オフィスへ出勤する際は時差出勤を実施。チーム制シフト勤務で、オフィス内の密集を回避

③ 海外現地法人での勤務体制

各国政府の指示に基づく感染症抑止策に従い、柔軟な勤務体制を適用

④ その他

当社グループの全施設で入口に消毒液を設置し、手指の消毒を徹底
会議、打合せは、WEB会議等のオンライン会議を活用する
国内出張、海外出張ともに、不要不急なものは禁止

生産体制

BCPに基づき、各拠点（セブ、佐賀、大阪、蘇州※生産委託、他）において柔軟な生産体制を実施

セブ工場 稼働再開し量産体制回復

佐賀工場 ろ材、マスク量産開始

蘇州工場 ※生産委託 通常稼働

大阪工場（アクシー） 本社工場移転、生産能力向上、マスク量産開始

業績への影響

各国で経済活動の再開と感染拡大防止策の両立を模索する動きが見られ、依然として先行き不透明な状況が続くなか、建機市場は回復基調

建機市場の動向

中国市場

経済活動は再開し、政府主導による公共投資の増加に伴う建機市場の更なる拡大が見込まれ、
主要顧客の生産活動は大幅に増加

日米欧亜市場

先行き不透明さが残るなか、経済活動の段階的な再開に伴い、主要顧客の生産体制は回復傾向

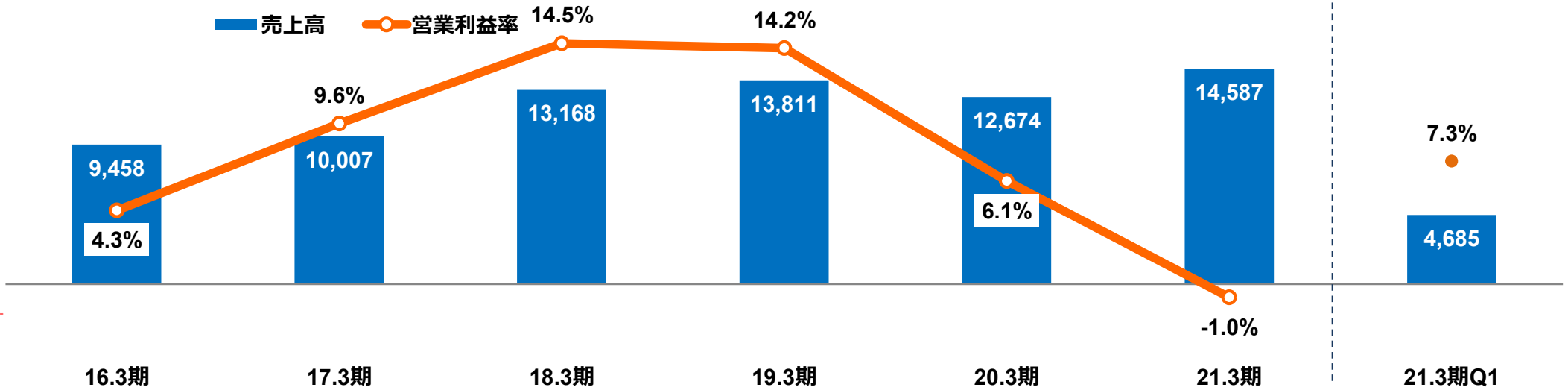
決算

参考資料

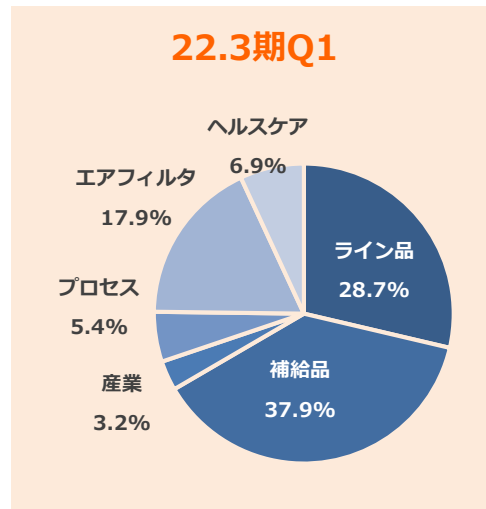
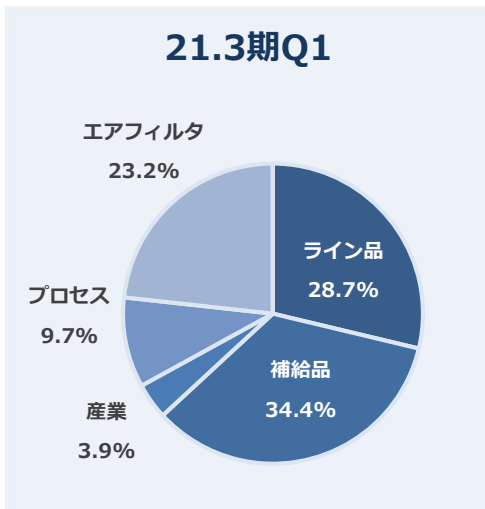
②財務ハイライト

売上高・営業利益率推移

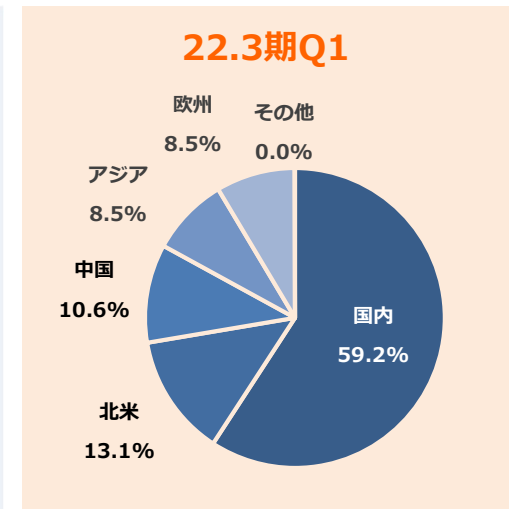
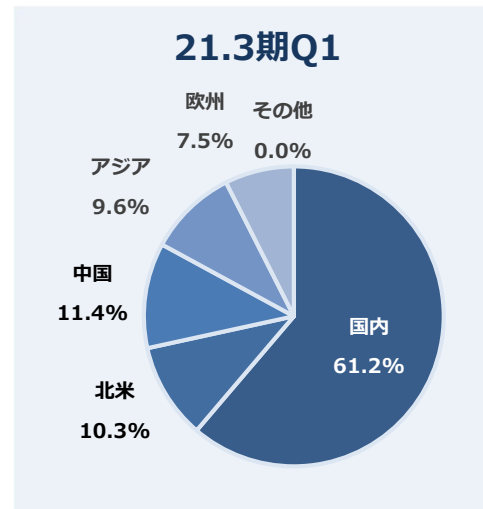
(単位：百万円)



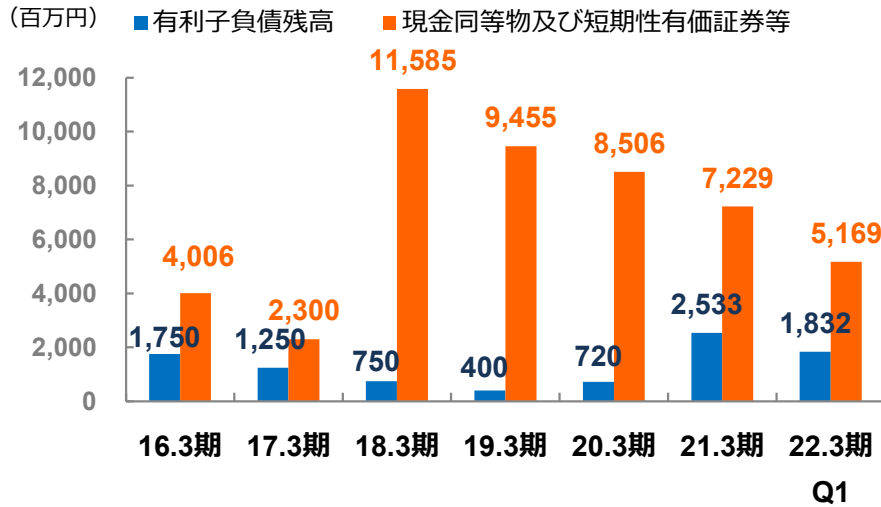
製品別売上高



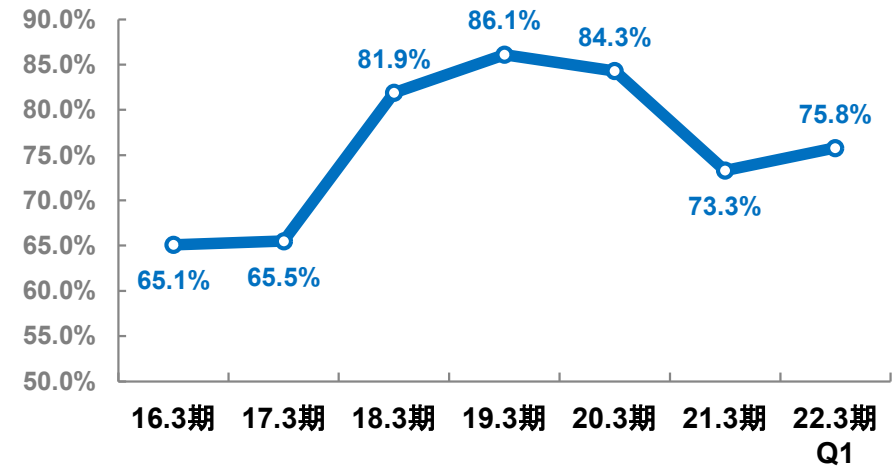
地域別売上高



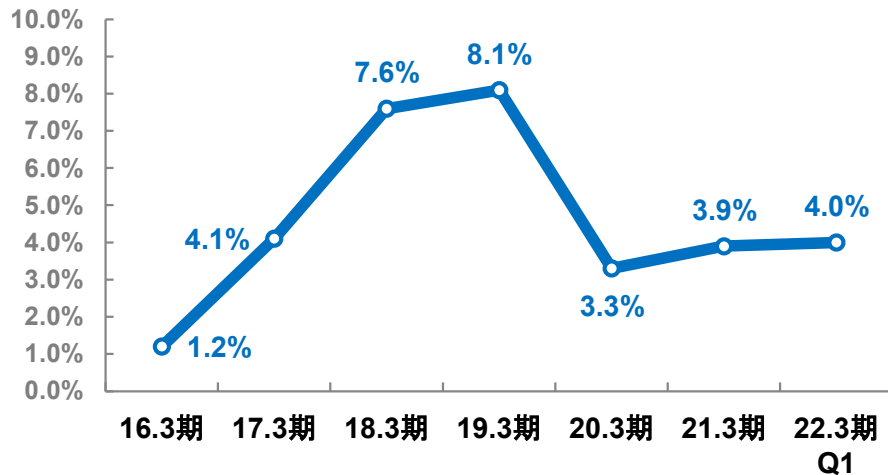
有利子負債・現金同等物及び短期性有価証券等残高



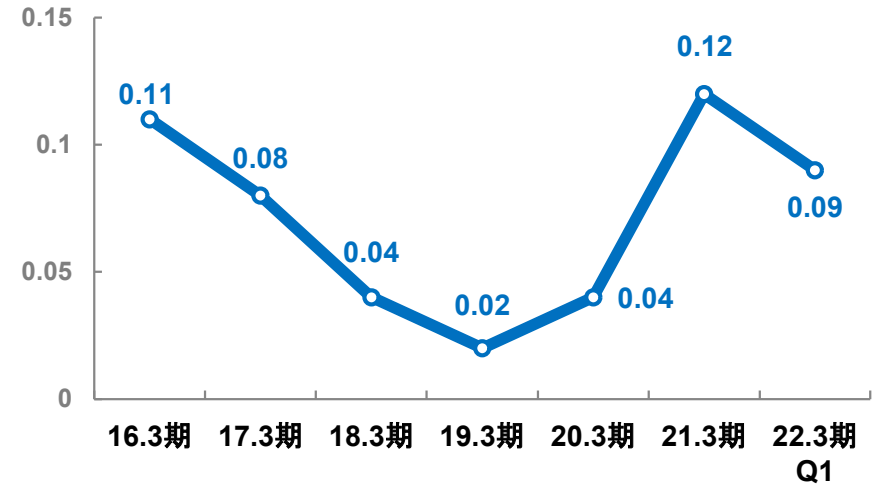
株主資本比率



ROE



D/Eレシオ



※18.3期に行った第三者割当増資を過年度より行ったと仮定して計算しております。

※18.3期に行った第三者割当増資を過年度より行ったと仮定して計算しております。

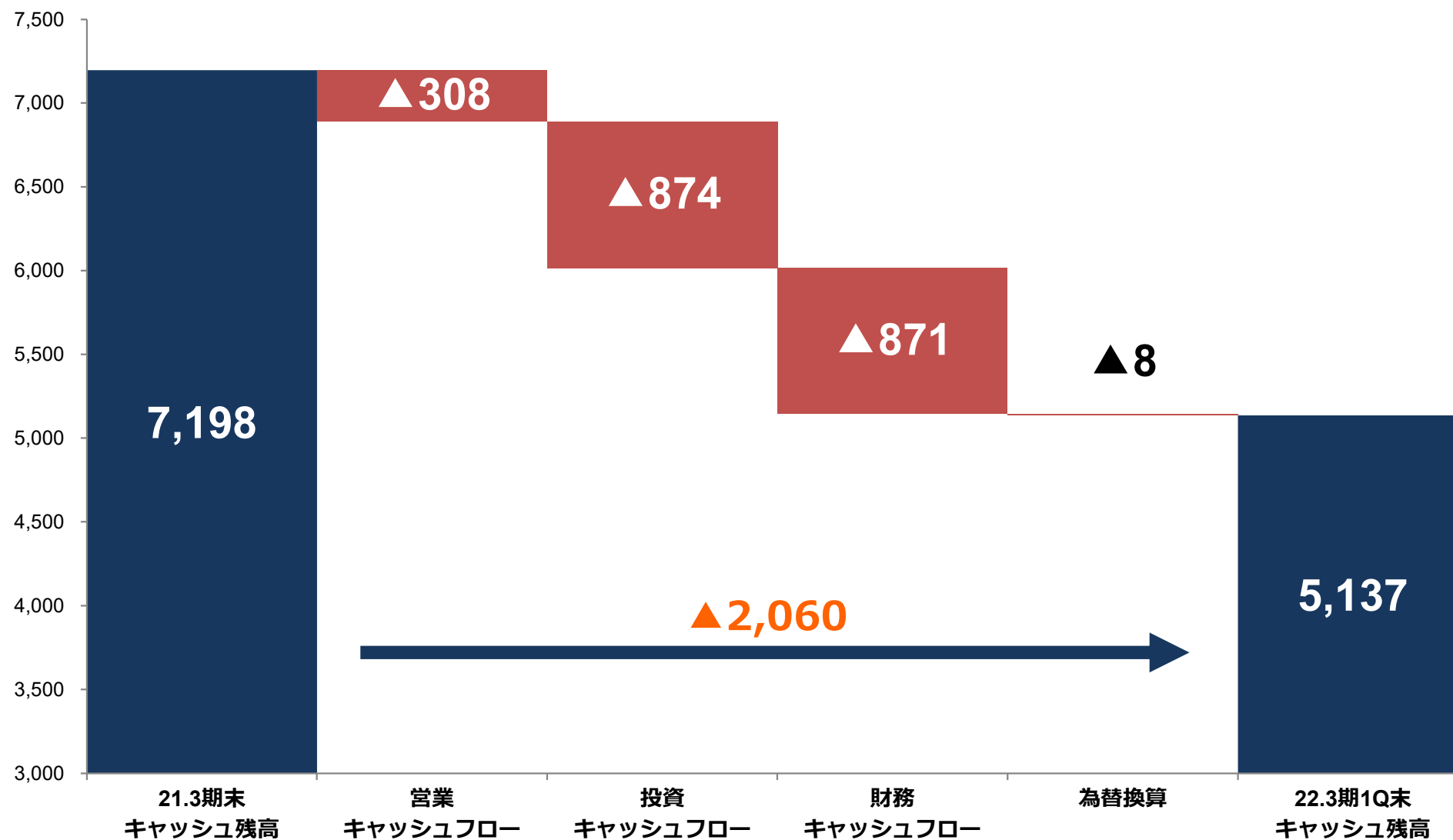
(単位：百万円)

	2021/3期末	2022/3期 Q1末	増減額	増減率
流動資産	15,323	14,093	△1,229	△8.0%
現金及び預金	7,229	5,169	△2,060	△28.5%
受取手形及び売掛金	4,285	4,623	337	7.9%
商品・製品& 原材料・貯蔵品	3,021	3,549	527	17.4%
その他	785	752	△33	△4.3%
固定資産	12,868	13,187	318	2.5%
有形固定資産	10,813	11,172	359	3.3%
無形固定資産	330	304	△25	△7.7%
投資その他資産	1,724	1,709	△3	△0.2%
資産合計	28,191	27,280	△910	△3.2%

	2021/3期末	2022/3期 Q1末	増減額	増減率
流動負債	5,539	4,755	△784	△14.2%
支払手形及び買掛金	1,952	2,936	983	50.3%
1年以内返済社債・ 短期借入金	1,003	403	△600	△59.8%
その他	2,583	1,415	△1,167	△45.2%
固定負債	1,969	1,850	△118	△6.0%
社債・長期借入金	1,529	1,428	△100	△6.6%
退職給付に係る負債	225	215	△9	△4.4%
その他	214	206	△7	△3.7%
純資産合計	20,682	20,674	△7	△0.0%
負債・純資産合計	28,191	27,280	△910	△3.2%

*自己資本比率 73.3% 75.7%

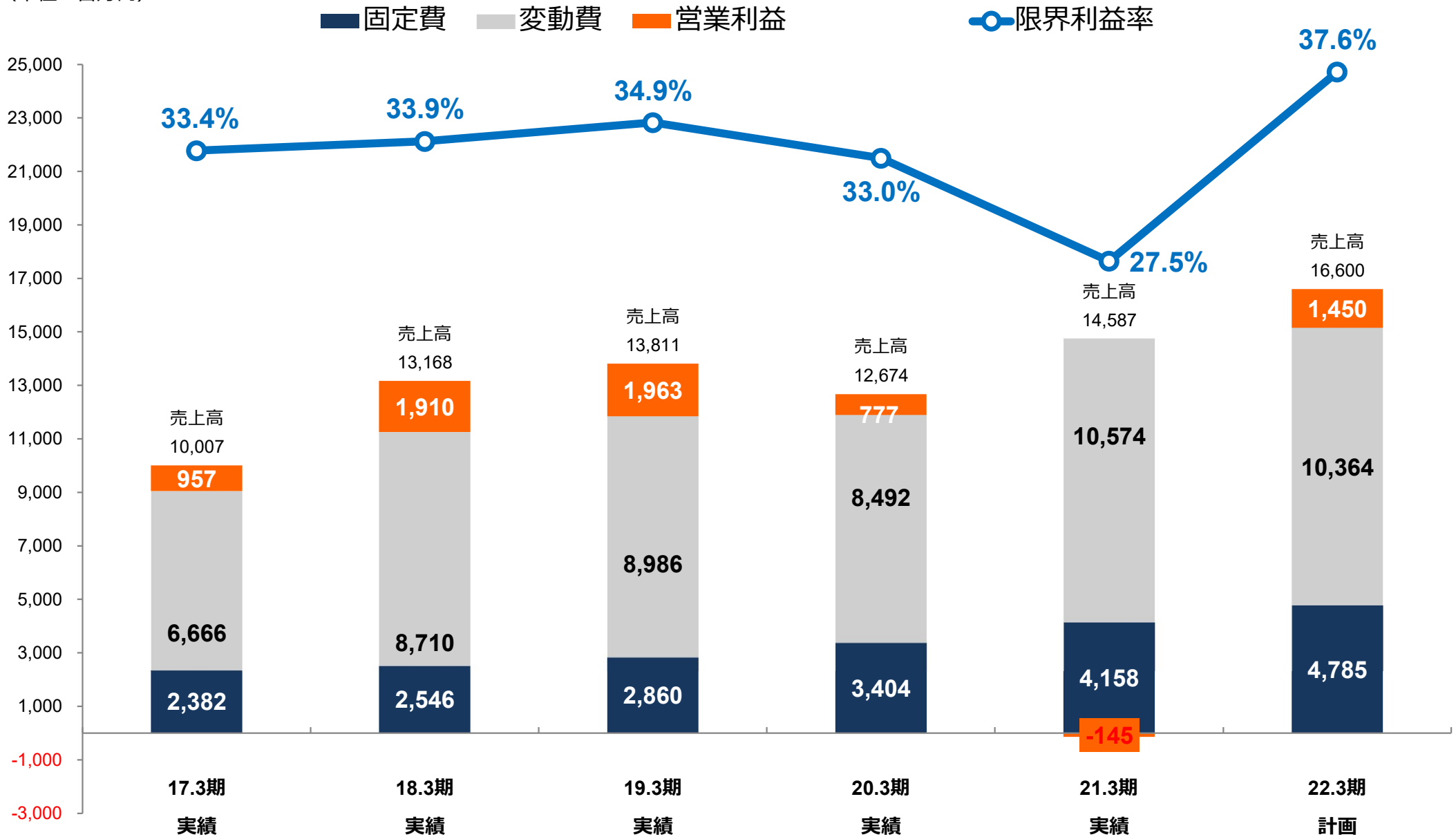
(単位：百万円)



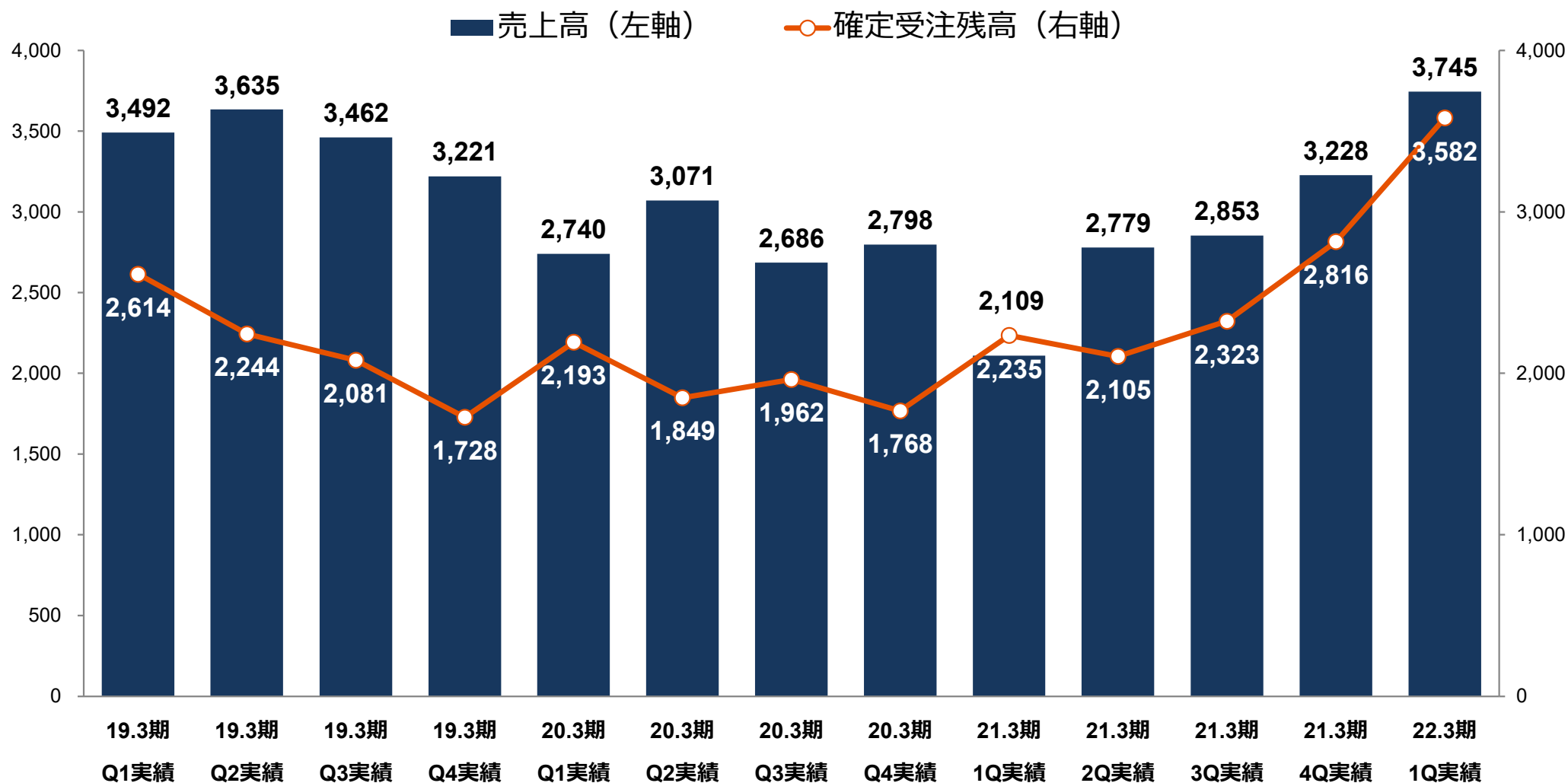
(単位：百万円)

Currency	Incoming		Outgoing		Net 各通貨	期中 平均レート (JPY)	円高ケース (10%)			円安ケース (10%)		
	各通貨	構成比	各通貨	構成比			期中平均 レート ▲10% (JPY)	レート 差額	影響額 (YTD)	期中平均 レート +10% (JPY)	レート 差額	影響額 (YTD)
JPY	¥5,100.0	75%	¥6,400.0	74%	¥-1,300.0	-	-	-	-	-	-	-
USD	\$13.0	21%	\$15.3	19%	-\$2.3	¥109.5	¥98.55	¥-10.95	¥25.19	¥120.45	¥10.95	¥-25.19
EUR	€ 1.3	3%	€ 1.1	2%	€ 0.2	¥132.0	¥118.76	¥-13.2	¥-2.64	¥145.16	¥13.20	¥2.64
PHP	PP0.0	0%	PP177.4	5%	PP-177.4	¥2.3	¥2.04	¥-0.2	¥40.27	¥2.50	¥0.23	¥-40.27
THB	฿20.60	1%	฿2.80	0%	฿17.80	¥3.5	¥3.15	¥-0.4	¥-6.23	¥3.85	¥0.35	¥6.23
Total	-	100%	-	100%	-	-	-	-	¥56.59	-	-	¥-56.59

(単位：百万円)



(単位：百万円)



		2021/3期	2022/3期	前年同期比	
		Q1 実績	Q1 実績	増減額 (百万円)	増減率
		金額 (百万円)	金額 (百万円)		
売上高		2,858	4,685	1,827	63.9%
	建機用フィルタ※	2,194	3,752	1,558	71.0%
	エアフィルタ	663	637	△26	△3.9%
	ヘルスケア	-	295	295	-
営業利益 (セグメント利益)		△98	341	439	-
	建機用フィルタ※	△144	478	623	-
	エアフィルタ	45	△26	△72	-
	ヘルスケア	-	△111	△111	-
	営業利益率	△3.4%	7.3%	-	
経常利益		△101	334	436	-
	経常利益率	△3.6%	7.1%	-	
四半期純利益		△82	208	291	-
	四半期純利益率	△2.9%	4.4%	-	
為替レート (円) (期中平均値)	USD	107.6	109.5	1.9	1.7%
	EUR	118.5	132.0	13.5	11.4%

※「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます

* 各セグメントの業績及び全社費用をよりの確に把握するため、当社の各報告セグメントに帰属しない本社及び一部子会社の管理部門の一般管理費等の全社費用につきましては、全社費用を別掲することにより、当連結会計年度より、所定のセグメントに配賦しない方法に変更しております

		2020/3期 実績	2021/3期 実績	2022/3期 予想	前期比
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減額 (百万円)
売上高		12,674	14,587	16,600	2,012
	建機用フィルタ※	11,296	10,970	12,000	1,029
	エアフィルタ	1,377	2,607	3,000	392
	ヘルスケア	-	1,009	1,600	590
営業利益		777	△145	1,500	1,645
	建機用フィルタ※	654	22	960	937
	エアフィルタ	122	△18	300	318
	ヘルスケア	-	△150	240	390
	営業利益率	6.1%	△1.0%	9.0%	-
経常利益		603	△135	1,470	1,605
	経常利益率	4.8%	△0.9%	8.9%	-
当期純利益		608	750	960	209
	当期純利益率	4.8%	5.1%	5.8%	0.6Pt
為替レート (円)	USD	108.8	106.1	105.0	△1.0%
	EUR	120.8	123.7	125.0	1.0%

※「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます

*各セグメントの業績及び全社費用をよりの確に把握するため、当社の各報告セグメントに帰属しない本社及び一部子会社の管理部門の一般管理費等の全社費用につきましては、全社費用を別掲することにより、当連結会計年度より、所定のセグメントに配賦しない方法に変更しております

The Specialist in Filtration
YAMASHIN 



この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております
実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは ヤマシンフィルタ株式会社 広報・IR担当まで

TEL 045-680-1680

E-mail ir@yamashin-filter.co.jp